

令和7年度  
運営諮問会議報告書

令和8年5月



**熊本高等専門学校**  
National Institute of Technology (KOSEN), Kumamoto College

## ま え が き

熊本高等専門学校では、自己点検・評価に関する活動を支援して頂くことを目的として、外部有識者から構成される運営諮問会議を毎年開催し、教育研究活動等の状況について評価及び助言を頂いております。令和7年度は11月20日に八代キャンパスにて開催し、本校から校長はじめ20名が出席、14名がオンラインにて視聴させていただきました。

昨年度の会議の主なテーマは、令和8年度に予定している学科改組、および昨年度から開始したアントレプレナーシップ教育についてでしたが、本年度は、本校の現況といじめ対策等の学生活動に関する報告をさせていただいたのち、本校でリベラルアーツ教育と呼んでいる学生の生き抜く力を育てる教育、および地域貢献活動について取り上げさせていただきました。リベラルアーツ教育では、課題解決型の授業を令和元年度のカリキュラムから導入し1年生から4年生まで毎年行っており、本校では専門教育以外の重要な柱のひとつと考えています。また、地域貢献は高専の重要な使命の一つですので二年前に地域の小中学生のSTEAM教育への協力を取り上げましたが、本年度は多くの委員の方が交代されたことも考慮して、地域との連携の取組み全体について紹介させていただきました。

リベラルアーツ教育についてはその重要性和難しさをご理解いただいたうえで大切なお指摘をいただき、地域貢献については活動の外部へ情報発信をより積極的に行うようご助言いただきました。どちらの取組みも高く評価いただき、さらに大きな期待をいただいたと理解しております。いただいたご助言を十分参考にさせていただきながら、具体的な活動を進めていきたいと考えております。

今後とも、ご指導ご鞭撻いただきますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

令和8年3月

熊本高等専門学校長 高松 洋

## 目次

まえがき

1	熊本高等専門学校運営諮問会議委員名簿	1
2	熊本高等専門学校運営諮問会議規則	2
3	日程等	4
4	出席者名簿	5
5	前年度提言等に対する改善に向けた対応	7
6	議事記録	12
7	今年度の会議における提言事項	40
8	説明資料	
	・令和6年度の熊本高等専門学校の活動状況について	42
	・生き抜く力を育てる授業 ―リベラルアーツ教育の展開状況―	50
	・地域貢献活動について	62

## 1. 熊本高等専門学校運営諮問会議委員名簿

氏 名	現 職
井 原 敏 博	国立大学法人熊本大学工学部長
荒 木 義 行	合志市長
小 野 泰 輔	八代市長
中 島 一 哉	熊本県商工労働部産業振興局 局長
星 田 正 治	熊本県中学校長会 会長
宮 村 宜 明	熊本県工業連合会 代表理事会長
二 宮 秀 樹	平田機工株式会社 取締役執行役員 管理本部長
櫻 井 一 郎	櫻井精技株式会社代表取締役社長
前 田 克	熊本日新聞社 論説委員会 論説副委員長
古 荘 直 樹	熊本高等専門学校熊本キャンパス同窓会 会長
中 山 諭扶哉	熊本高等専門学校八代キャンパス同窓会 会長

(敬称略)

## 2. 熊本高等専門学校運営諮問会議規則

熊本高等専門学校運営諮問会議規則

平成23年5月17日制定  
平成28年3月18日一部改正  
平成31年1月22日一部改正  
令和7年10月24日一部改正

(趣旨)

第1条 この規則は、熊本高等専門学校内部組織規則第11条第3項の規定に基づき、運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 諮問会議は、本校の教育研究活動等の状況について評価及び助言等の提言を行い、本校での自己点検・評価に関する活動を支援することを目的とする。

(任務)

第3条 諮問会議は、次に掲げる事項について、校長の諮問に応じて評価等を実施するものとする。

- (1) 本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する事項
- (2) 本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する事項
- (3) その他本校の運営に関する事項

(組織)

第4条 諮問会議は、本校の職員以外の者で次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 大学等高等教育機関の関係者
- (2) 地方自治体の関係者
- (3) 地域の教育関係者
- (4) 産業・経済界の関係者
- (5) 報道機関の有識者
- (6) 本校を卒業又は修了した者
- (7) その他高等専門学校に関して広くかつ高い識見を有する者

(委嘱)

第5条 委員は、校長が委嘱する。

(会長)

第6条 諮問会議に、会長を置き、校長が指名する者をもって充てる。

- 2 会長は、諮問会議を主宰する。
- 3 会長に事故があるときは、あらかじめ校長が指名する委員がその職務を代行する。

(任期)

第7条 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員以外の者の出席)

第8条 会長が必要であると認めた場合は、委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(開催)

第9条 諮問会議の開催は、原則として年1回とし、開催場所は、熊本キャンパスと八代キャンパスにおいて交互に開催する。

(事務)

第10条 諮問会議に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成23年5月17日から施行する。

2 この規則施行後最初に委嘱される第4条の委員の任期は、第6条の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和7年10月24日から施行する。

### 3. 日 程 等

【日 時】令和7年11月20日（木）14時～

【会 場】熊本高等専門学校 八代キャンパス（大会議室）

【次 第】

- 1 開会（校長挨拶）
- 2 日程説明、出席者の紹介等
- 3 熊本高等専門学校の現況について
- 4 前年度提言に対する改善に向けた対応について
- 5 話題提供  
「生き抜く力を育てる授業 ―リベラルアーツ教育の展開状況―」  
「地域貢献活動について」
- 6 意見交換、まとめ
- 7 閉会（校長謝辞）

## 4. 出席者名簿

### 【運営諮問会議委員】

井原 敏博 国立大学法人熊本大学工学部長  
平井 宏英 八代市副市長  
※ 小野 泰輔 委員（八代市長）代理出席  
中島 一哉 熊本県商工労働部産業振興局 局長  
星田 正治 熊本県中学校長会 会長  
宮村 宜明 熊本県工業連合会 代表理事会長  
二宮 秀樹 平田機工株式会社 取締役執行役員 管理本部長  
前田 克 熊本日日新聞社 論説委員会 論説副委員長  
古荘 直樹 熊本高等専門学校熊本キャンパス同窓会 会長  
中山 諭扶哉 熊本高等専門学校八代キャンパス同窓会 会長

### 【学校関係者】

高松 洋 (校長)  
大塚 弘文 (校長特別補佐)  
上久保 祐志 (校長特別補佐)  
光永 武志 (副校長・熊本)  
田中 禎一 (副校長・八代)  
小田川 裕之 (教務主事・熊本)  
濱邊 裕子 (教務主事・八代)  
合志 和洋 (学生主事・熊本)  
東田 洋次 (学生主事・八代)  
堀本 博 (寮務主事・熊本)  
宇ノ木 寛文 (寮務主事・八代)  
柴里 弘毅 (総務主事・熊本)  
田中 裕一 (総務主事・八代)  
湯治 準一郎 (点検評価室室長・八代)  
池田 翼 (リベラルアーツ教育担当)  
佐藤 敏明 (事務部長)  
清永 政治 (総務課長)  
岡崎 政典 (管理課長)  
鮫島 浩一 (学務課長)

一 鷗 宏 真 (学生課長)

(以下、オンラインにて参加)

西 山 英 治 (情報通信エレクトロニクス工学科長)

山 本 直 樹 (人間情報システム工学科長)

小 田 明 範 (機械知能システム工学科長)

岩 坪 要 (建築社会デザイン工学科長)

大 島 賢 治 (生物化学システム工学科長)

四 宮 一 郎 (基幹教育部門副部門長)

村 山 浩 一 (専攻科長)

葉 山 清 輝 (副専攻科長)

井 山 裕 文 (国際交流支援室副室長)

藤 本 洋 一 (情報教育セキュリティセンター長)

藤 井 慶 (情報教育セキュリティ副センター長)

中 島 栄 俊 (地域協働プロジェクトセンター長)

村 田 美友紀 (教学マネジメント副室長)

工 藤 友 裕 (基幹教育部門部門長 (代理))

## 令和6年度提言に対する改善に向けた対応について

### I 改善に向けた対応

令和6年度提言に対する改善に向けた対応は、前回会議で各委員からいただいた貴重なご意見を、運営諮問会議会長の下で提言としてとりまとめいただき、その提言に対する改善に向けた対応について、本校で検討した結果をとりまとめたものです。

この改善に向けた対応は、企画運営会議に報告し、本校の課題として共通認識を図り、今後も改善に向け、組織的・継続的に取り組むこととしています。

### II 前回会議における提言事項

前回受けた2項目の提言事項について、それぞれ以下のとおり整理しています。

#### **【提言事項】**

運営諮問会議会長においてとりまとめいただいた提言です。

#### **【提言に関するご意見等抜粋】**

各委員からいただいた上記に関連するご意見です。

#### **【対応区分】**

本校で提言の現状確認を行い、対応の進捗状況を下記A～Dの4区分で分類したものです。

#### **【提言に対する点検及び改善に向けた具体的対応状況】**

提言に対する対応状況及び具体的な改善方策を取りまとめたものです。

### III 改善状況の区分

改善に向けた対応は、既に改善が実施されているものから改善には今後十分な検討を要するものまで、以下の4つの区分に分類しています。

#### ◇対応区分

A	改善に向けた対応を、実施しているもの
B	改善に向けた対応を、直ちに行う必要があるもの
C	改善に向けた対応を、将来的に行う必要があるもの
D	改善に向けた対応には、十分な検討が必要なもの

◆「令和8年度 学科改組について」に関する提言事項(1-1)

<p>提言等事項</p>	<p>全ての学科に対して情報教育を課し、情報探求系人材、情報融合系人材を育成するという改組の趣旨は時宜を得たものであり、力強く改革を推進していただきたい。 しかしながら、ミスマッチを防ぐためにも、その内容、使用している名称等を含め中学卒業時の生徒(志願者)、その保護者等にも受け入れやすい説明・工夫の検討をお願いしたい。</p>
<p>提言に関する 運営諮問会議で のご意見等抜粋</p>	<p>◇井原議長 情報融合系人材で、八代の3学科に情報系のコースを作るというのはすごく魅力的で面白いアイデアだと思う。一方、情報探求系人材というのは、いまひとつ分かりにくい。</p> <p>◇亀田委員 情報探求と情報融合という難しい言葉ばかりでは、どの程度学校が変わっていくのかよく分からない。今から学生を募集する際には、中学生や保護者にも分かりやすい説明をお願いしたい。</p> <p>◇野中委員 中学生や保護者にも分かりやすい学科の説明をしていただき、納得の上で入学できるようにしていただきたい。</p>
<p>対応区分</p>	<p>A:「改善に向けた対応を、実施しているもの」</p>
<p>判断理由</p>	<p>中学生にもわかりやすい工夫されたキャッチフレーズを用いて広報を行っている。KOSEN FESやオープンキャンパス他、各種イベントで広報するとともに、ホームページや学生募集パンフレット等で広く情報提供している。また、今後も学校紹介動画の公開等、中学生にもわかりやすく、かつ、情報が届きやすい方法での広報を計画している。</p>

(提言に対する点検及び改善に向けた具体的対応状況)

<p>①</p>	<p>&lt;提言前&gt; ・(令和7年6月25日認可)</p> <p>&lt;提言後&gt; ・熊本キャンパス3学科について「情報に関する技術について深く学びたい人」、八代キャンパス3学科について「専門分野の情報を駆使できるようになりたい人」および「専門分野も情報技術も学びたい人」をキャッチフレーズとしてチラシを作成、KOSEN FES(東京6/15・大阪7/13)やオープンキャンパス(八代8/2・熊本8/3)で配布した。また、ホームページや学生募集パンフレット(「やってみよう」が未来をつくる)で情報提供するとともにオープンキャンパスの学校説明会では資料を用いて説明した。その他に新規の取り組みとして、ナレッジスターに改組を含めた学校紹介動画の制作を依頼、今後YouTube「みんなの高専チャンネル」で公開している。</p>
----------	---

◆「令和8年度 学科改組について」に関する提言事項(1-2)

提言等事項	情報融合系人材の育成に関しては、7(人)×3(学科)と言わず、教育上のキャパシティーが許す範囲で希望者をすべて受け入れる体制はとれないか。
提言に関する 運営諮問会議で のご意見等抜粋	◇井原議長 7名程度というのは、希望者を十分カバーできるのか。できれば、希望した学生全員収容できるような状況を整えていただきたい。
対応区分	A:「改善に向けた対応を、実施しているもの」
判断理由	募集人員に関わらず、教育上のキャパシティーが許す範囲で、希望する学生を可能な限り情報コースに配属できるよう計画している。

(提言に対する点検及び改善に向けた具体的対応状況)

①	<提言前> ・八代3学科の情報コースの定員は各科7名程度とし、3学科合わせて21名を満たすよう配属する。
	<提言後> ・授業および演習を実施する教室の定員(約40名)を上限として配属を行い、希望する学生が可能な限り情報コースを選択できるよう配慮する。

◆「令和8年度 学科改組について」に関する提言事項(1-3)

提言等事項	国際性を意識した普遍的な教育を実践しながらも、教育機関としての高専、あるいは卒業生が地域と関わり、地域へ貢献するための活動を活発に行うことは容易ではないと思われる。工業連合会(関連企業)、熊本県、九州大学、熊本大学等との連携を上手く利用した効果的な教育・研究の充実を期待したい。
提言に関する運営諮問会議でのご意見等抜粋	◇亀田委員 英語教育にも取り組んでいただきたい。  ◇田中委員 連携する先として、九州大学、熊本大学、他の高専、熊本県ということになっているが、これに留まらず、幅広く九州、あるいは、全国あるいは台湾・海外、そういったところとの連携も積極的に繋いでいただきたい。  ◇前田委員 新・閃きイノベーションなどで地場企業とも関わりながら解決に繋げていこうというプロセスに学生が携わっていることを知った。そういうことが糸口となり地元企業との関わりができて就職先として繋がっていく。そうした流れをより強くしていただきたい。
対応区分	A:「改善に向けた対応を、実施しているもの」
判断理由	各種助成事業等を積極的に活用し、従来から実施している取組を継続しつつ、それらを発展的に展開している。

(提言に対する点検及び改善に向けた具体的対応状況)

①	<p>&lt;提言前&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6~10年度グローバルエンジニア育成事業、令和6年度高専生の海外活動支援事業を活用し、Ideathon 2024 in 香港、2年生台湾研修、海外研修旅行(情報エレクトロニクス工学科4年、制御情報システム工学科4年、人間情報システム工学科4年、機械知能システム工学科4年他)、日タイ高校生ICTフェア・ゲームハッカソン、英語ワークショップ in Singapore、その他の個別海外活動、国内活動を実施し、地元企業見学等の協力を得た(引用:熊本高専 概要 2025, p. 51)。</li> <li>・海外協定校からの短期留学生を受け入れ、研究活動を通じて日常的に国際交流活動ができる環境に努めている。コロナ以降停止していた協定校への短期プロジェクト学生の派遣を開始した。</li> </ul> <p>&lt;提言後&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度高専生の海外活動支援事業を活用し、前年度の研修旅行に加え、研修旅行(機械知能システム工学科3年・タイ高専・日系企業工場見学、建築社会デザイン工学科3年選抜:台湾高雄高級工業職業学校、生物化学システム工学科3年選抜:プリンセス・チュラポーン・サイエンス・ハイスクール ルーイ校)や海外教員招聘特別講義等を実施した。</li> <li>・海外協定校からの短期留学生を受け入れ・派遣を昨年に引き続き実施し、海外環境での個々の学生のスキルアップに活用している。</li> <li>・KOSEN Global Camp 2025 in Kumamoto で、タイ、シンガポール、九州・沖縄地区高専生達が協力し、「スマート防災」及び「オーバーツーリズムの解消」に関する解決策を議論するアイデアソンを開催し、地元企業の見学や公的機関の協力を得た。準備に当たって、ファシリテーション研修、英語研修、宿泊研修、オンライン事前学習会、本科1・2年生の授業で各研究室・設備紹介パネル(英語版)作成展示を行い、海外からの訪問・来校時の施設見学等にも役立てた。</li> </ul>
②	<p>&lt;提言前&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年9月25日(水)「第15回半導体材料・デバイスフォーラム」を本校主催で対面及びオンラインで開催し、全国各地の高専・大学・企業等から、471名の参加があった。</li> </ul> <p>&lt;提言後&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年10月18, 19日「第16回半導体材料・デバイスフォーラム」・「第1回先端技術協奏セミナー」を開催する。</li> </ul>
③	<p>&lt;提言前&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立高専 半導体人材育成事業(COMPASS5.0半導体分野)に、全国の拠点校として、産学連携による教育実践、教育研究機関との連携やすそ野拡大に取り組んでいる。本科4年生全学科を対象に「半導体工学概論」を開講し、毎年約150名の学生が受講している。専攻科でも半導体関連の科目を開講し、半導体関連企業への就職者が年々増加している。</li> </ul> <p>&lt;提言後&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も産業界や官公庁と連携しながら、学生が「自分の学びが社会のどこで役立つのか」を考え、学校としては「どんな人材が社会に求められているのか」を明確しながら、取り組みを継続する。</li> </ul>
④	<p>&lt;提言前&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(一社)熊本県工業連合会及び本校が主催する「新・閃きイノベーション」を実施してきた。</li> <li>・地元企業と連携して研究探求型人材育成プログラムを実施している。</li> </ul> <p>&lt;提言後&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年4月18日(金)「新・閃きイノベーション2025」の発表会を開催した。今年は、発表会の案内段階で、発表課題名以外の取り組み課題名と出題企業名の一覧を周知し、地域との関りをより意識している。</li> <li>・地元企業との研究探求型人材育成プログラムは、その企業への応募等を参加の条件とはしていないが、広く、地元の関係する企業への関心や実際の応募にもつながっていると考えている。</li> </ul>
⑤	<p>&lt;提言前&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本高専地域連携振興会では、令和6年度から、人材還流支援事業の試みを始めた。</li> </ul> <p>&lt;提言後&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度は、運用等、事業化の詳細を検討し、地域連携振興会HPの改修等を予定している。</li> </ul>

◆「熊本高等専門学校のアントレプレナーシップ教育について」に関する提言事項(2-1)

<p>提言等事項</p>	<p>アントレプレナーシップ教育は高専の学生の属性(年齢や特性)に合致しており、我が国の経済、産業の復権・発展のためにも是非積極的に推進していただきたい。持続可能なアントレプレナーシップ教育の実践のために、産業界や自治体と連携を深め必要な教育資源・資金の調達に向けての工夫を期待したい。</p>
<p>提言に関する 運営諮問会議で のご意見等抜粋</p>	<p>◇名垣委員(荒木委員代理) 真に強い経済というのは、内側からイノベーションを引き起こしていくような、内発的な発展が可能な経済であり、そのような体質に変えていく取り組みは、県を中心に進められているところである。そういう意味では、これからの時代に挑戦していくような人材を育成していくという点ではマッチしていると思われる。是非よろしく願いたい。</p> <p>◇田中委員 国の制度でできないところは、産業界に頼っていただきたい。我々が民間から声を上げて、知事、国、国会議員に上げて変えていこう。高専の人たちが日本を変えていく意識をぜひ持っていただきたい。</p> <p>◇櫻井委員 ふるさと納税の仕組みで、2000円程度払えば寄付金全額が産業技術センターに直接入る仕組みができています。当該センターに当時の記録が残っていると思うので、確認してみたいか。</p>
<p>対応区分</p>	<p>A:「改善に向けた対応を、実施しているもの」</p>
<p>判断理由</p>	<p>産業界との連携強化等を目的として、ネーミングライツ事業を新たに立ち上げ、実際に契約を締結している。また、八代市とふるさと納税制度に係る協議を進める等、具体的な取組がなされている。</p>

(提言に対する点検及び改善に向けた具体的対応状況)

<p>①</p>	<p>&lt;提言前&gt; ・教育施設の保守・改修等に要する予算を充実させることは難しい状況であった。</p> <p>&lt;提言後&gt; ・教育環境・施設の改善・充実に要する費用の獲得、また産業界との連携強化を目的として、本校の施設等に命名権を付与する「ネーミングライツ事業」を令和6年10月に導入し、令和7年9月に、ネーミングライツ事業(第1号)として、三井三池製作所とパートナー契約を締結したところです。 ・今後も、パートナー企業を募集・獲得していくことで、教育環境の充実、産業界との連携を広げてまいります。</p>
<p>②</p>	<p>&lt;提言前&gt; ・学生や教員の活動を支援するための予算を十分に確保することが難しい状況であった。</p> <p>&lt;提言後&gt; ・「高等専門学校スタートアップ教育環境整備」や「グローバルエンジニア育成事業」に係る予算だけでは不足しており、活動に必要な経費を確保することが困難な状況にありました。特に、補助金や運営交付金を主とする財源のため使途に制限があることから、学生や教員の活動を実態に即した支援ができない場面もありました。そこで、使途の自由度を高めた基金(仮称:熊本高専教育研究基金)の設立に向けた準備を開始しています。その第一歩として、ふるさと納税制度に係る協議が本校と八代市との間で行われました。令和7年8月には、本校のこれまでの取り組みについて学校長より説明が行われ、アントレプレナーシップ教育・国際化教育・地域課題解決・STEAM教育に対するご寄付についての有意義な意見交換が行われました。今後も、持続可能なアントレプレナーシップ教育実践を支援するために、基金設立のための取り組みを継続してまいります。</p>
<p>③</p>	<p>&lt;提言前&gt; ・熊本県内の企業・大学・金融機関・支援機関・行政等が一体となり、地域のスタートアップの創出や発展、並びに地場企業との協業を推進するための組織が形成されていませんでした。</p> <p>&lt;提言後&gt; ・令和7年7月にくまもとスタートアップ・エコシステム コンソーシアムに参画いたしました。産学官金のコミュニティをさらに充実させ、グローバルで活躍するスタートアップの創出を目指すエコシステムの形成を産業界や自治体と連携しながら図ってまいります。</p>

## 令和7年度熊本高等専門学校運営諮問会議

### 【司会（総務課長）】

本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。ただ今から令和7年度熊本高等専門学校運営諮問会議を開催いたします。私、本日進行を務めさせていただきます熊本高専総務課長の清永と申します。よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、まず、本校の高松校長からご挨拶を申し上げます。

### 【高松校長】

皆さんこんにちは。本日は、お忙しいところお越しいただきまして、どうもありがとうございます。本日、この運営諮問会議に初めてお越しにいただいている方が結構おられますので、簡単に会議についてお話しさせていただきますと、運営諮問会議の目的というのは、本校の活動を皆さんに知っていただき、いろいろな観点から、忌憚のないご意見を伺う、そういうものでございます。それを本校の運営に生かすために行っているわけでございます、一種の外部評価委員会という位置づけをしております。時間が限られておりますので、まずは本校の概要を説明させていただいた後に、毎年トピックを2つ選びまして、それについて、紹介させていただいております。昨年は、最近のアントレプレナーシップ教育についてと、国からの要請があります情報系人材の育成に対応し本校が来年4月に改組いたします概要の説明をさせていただきました。一昨年は、本校が力をいれているSTEAM教育のご紹介と、九州大学と九州の九高専の連携教育について、紹介させていただきました。一昨々年は、その年（2022年）に半導体教育が始まっておりその話と、学生の対応、結構いろいろ難しいことがあります、それについて紹介させていただきました。そのような形で、毎年2つずつトピックを選んで、紹介させていただいております。

今年は本校が5年ぐらい前から力を入れておりますリベラルアーツ教育と、高専として重要な地域連携について、この2つに絞って、お話をさせていただこうと思っております。今から2時間ぐらいですけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

### 【司会（総務課長）】

それでは、本日の日程等につきましてご説明いたします。

まず配付資料の確認ですが、お手元に「令和7年度熊本高等専門学校運営諮問会議資料」をお配りしております。

その他参考資料としまして、「熊本高専の概要2025」、「やってみようが未来を作る」、「企業の皆様へ2025」、「熊本高専 地域協働プロジェクトセンター報」、「熊本高専 地域連携振興会パンフレット」、「ふるさと納税 八代市次世代創業者育成事業のチラシ」をお配りしておりますので、随時ご参照いただければ幸いに存じます。

それでは、会議資料の1ページ日程表をご覧ください。

最初に本校の活動状況について、ご報告いたします。次に、前回のこの会議で頂戴いたしました各種の提言に対する本校の改善に向けた改善後の状況についてご報告いたします。続きまして、本日の話題提供としまして、こちらで2つのテーマを用意させていただいております。

このテーマについて、最初に学校側から説明をし、委員の皆様にご意見を交換していただいた後、協議の内容等を踏まえ、最後に提言事項として整理をしていただければと存じます。それぞれのテーマについて、説明、質疑応答を各10分程度とさせていただきます。

全体の会議時間は、2時間30分程度で終了時刻は16時45分ぐらいにさせていただきたいと思っております。本日の会議内容につきましては、後日報告書にまとめ、本校のウェブサイトにて公開する予定にしておりますので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

また、本日は議事要録を作成するため録音等をさせていただきますことをご了承くださいますようお願い申し上げます。

続きまして、本日ご出席をいただいております委員の皆様をご紹介させていただきます。熊本大学工学部長 井原 敏博様。井原様には本会議の会長にご就任いただいております。八代市長 小野 泰輔委員の代理として、八代市副市長 平井 宏英様。

熊本県商工労働部産業振興局局长 中島 一哉様。

熊本県中学校長会会長 星田 正治様。

熊本県工業連合会代表理事会長 宮村 宜明様。

平田機工株式会社取締役執行役員管理本部長 二宮 秀樹様。

熊本日日新聞社論説委員会論説副委員長 前田 克様。

熊本高等専門学校熊本キャンパス同窓会会長 古荘 直樹様。

熊本高等専門学校八代キャンパス同窓会会長 中山 論扶哉様。

なお、合志市長の荒木 義行様、櫻井精技株式会社代表取締役社長 櫻井 一郎様は、本日も都合により欠席でございます。

また、本校関係者の出席につきましては、会議資料の名簿を持って紹介に代えさせていただきます。

それではこれより議事に入りたいと思っております。

会議規則第6条に基づき、議長は会長が務めることになっております。

井原会長におかれましては、会議の進行をよろしく願いいたします。

#### 【井原議長】

どうぞよろしく申し上げます。それでは会議に入らせていただきます。

限られた時間での会議になりますので、進行へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

まず最初は、熊本高等専門学校の現況についてご報告いただきたいと思います。会議資料7ページ目から14ページ目をご覧ください。高松校長と田中 禎一副校長からご説明をお願いいたします。

## 【田中副校長】

それでは前半部分は、熊本高等専門学校八代キャンパスの副校長の田中が内容についてご説明いたします。資料をご覧ください。まず目次としまして、ここにございます流れで  
ご説明いたします。

まず、熊本高専のキャンパスと学科について、簡単に説明いたします。熊本高専は、電子情報系学科の熊本キャンパスと、複合学科の八代キャンパスの2キャンパスで運営されています。学科は6学科構成になっておりまして、5学年の定員がそれぞれ200名ずつの全部で1200名となっております。そして、専攻科の2年課程で、各専攻48名ずつの96名ということになっております。

次に、入学の状況についてご説明いたします。志願倍率はここ5年全体として概ね2倍程度を確保しており、女子学生の比率は、毎年20から30%、2025年度は33%と、増えております。志願倍率を上げるためには、毎年女子学生の応募をいかに増やすかが鍵になっておりますので、その努力をしているところでございます。学科別の志願倍率は、推薦選抜も学力選抜も年度により上下しますが、これは前年度高くなると次年度は低くなるという傾向がございます。入学した学生のうち県内からが95%ということで、非常に多くの学生が、熊本県内から入学してきております。卒業後の進路ですが、就職が大体6割、進学が4割となっております。就職の学生の8割程度は県外で、ここ数年、TSMC・JASMさんの影響もあり、県内の就職が徐々に増えている状況で、今年は13%、昨年度も13%程度が県内に就職しております。

次は、学寮についてです。熊本キャンパスと八代キャンパスにそれぞれ寮がございまして、熊本キャンパスは、明和寮と国際寮がございまして、八代キャンパスは、八龍寮（男子寮）と夕葉寮（女子寮）がございまして、入寮率は、熊本キャンパスは25%程度、八代キャンパスが40%程度となっております。寮費は、3食の食事がついて、毎月だいたい4万程度で生活ができるようになっております。寮については、だいぶ古くなったところもございまして、改修が進んでいる状況で、寮生の生活環境の改善に努めているところです。

次は、本校の特徴的な取り組みとしていくつかある中から、赤字（赤字）で書いてございます半導体人材育成教育と国際化教育、そしてSTEAM教育について、簡単にご説明させていただきます。

まず、半導体人材育成教育です。これは、令和4年度より取り組んでいるもので、今回はボリュームゾーンと呼ばれる半導体製造人材の育成についてご説明いたします。半導体工学概論がございまして、これは八代キャンパスも含めて全学科の学生が受講可能となっております。人材育成では、産学連携の授業と半導体技術検定対策講座、そして有明高専との共同講義や、あるいは全国高専教員対象の半導体製造実習の実施をしております。この他の人材育成もございまして、半導体人材育成事業のボリュームゾーンについて、説明いたしました。

次に、国際化活動になります。現在、留学生は両キャンパス合わせて3年から5年生まで13名になっております。滞在期間が2ヶ月から4ヶ月程度の短期留学生もございまして、今年度は11名が短期留学で来校しております。交流活動に伴う海外学生の受け入れは75名。交流活動とは、グローバルキャンプのような日本の学生と一緒に交流する活動について、75名程度が来校しております。熊本高専生の4学科で海外研修旅行を行っております。タイ、シンガポール、ベトナムに行っております。残りの2学科もクラスの半分程度の学生が希望して海外研修旅行にも参加している状況です。

次に、STEAM教育については、毎年度大体80回程度実施しております。受講者は5000人を超える状況となっており、1年の間に多くの対外的な授業、STEAM教育が行われております。

次に、学生の活動状況について、少しだけ高専ロボコンについて紹介します。ロボコンの九州大会は、9月28日に大牟田総合体育館で開催されまして準決勝。決勝では全部熊本高専で占められた形で、九州沖縄地区大会では、熊本キャンパスAチームが優勝、八代キャンパスのAチームがアイデア賞ということで全国大会に行きました。全国大会はつい先日11月16日に国技館でありまして、熊本キャンパスAチームはロボコン大賞という最高の賞をいただき、八代キャンパスAチームも特別賞をいただいております。

ここまでが学生の活動状況で、次は学生支援の例について少し説明させていただきます。本校では、この図（資料12ページ下部）に示されますように、各種委員会と学生支援連絡会議が密に連携を取り学生の支援に当たっております。今回は、この中でもいじめ対策委員会の説明をさせていただきたいと思っております。

本校では、いじめ対策について各種の防止対策をとっております。ここにございますように、いじめ防止基本計画の制定、いじめ防止マニュアルの整備、いじめ防止プログラムの実施、いじめに関係するアンケートも年4回、いじめ対策委員会も年6回開催しております。これによって、いじめ発生の未然防止といじめの芽をできる限り早期に察知して、速やかな対応を行っております。今年度と昨年度の事案については、資料（13ページ下部）にございますけれども、事案の認知は、大体アンケートや学生からの相談に拠ることが多く、最近はSNSに書き込んだりされる事案が目立っております。対応としては、いじめ対策委員会や専門家、担任、保健室等が非常に密に連携を取りながら対策をとっているという状況です。

ここで、校長に替わります。

#### 【高松校長】

最後に、本校が抱えております最大の課題について、少し紹介させていただきたいと思っております。本校は、14年前に2つの高専が統合して熊本高専になりました。それまで4学科ずつ計8学科だったものが6学科になっているということでございます。昔は8学科分の教員がおりましたが、今6学科になりましたので、ある時から教員を減らすよう高専機構

本部からずっと言われているということでございます。教員組織がやはり一番問題でございまして、実は今、本校は高専機構から言われた全員で93名、教授47名、准教授46名にするように言われておりますが、現在98名なのですが、そこに至る過程でも14ページ上部右側の図グラフに書いてありますように、年々減っております。それはなぜかという、ほとんど教員不補充で来ているからでございます。ですから、2018年から7年間で27名、これは28%の減少になっております。今後4年間でさらに5名削減しないといけないという大変厳しい状況にあります。人数が減っているということもありますが、やはり大きい問題がございまして、募集停止ということは若い人が入ってこないということです、基本的には平均年齢が1歳ずつ、歳をとっていくということになります。この資料（14ページ上部）右側に2018年当時と今年の5月当時の年齢のヒストグラムで職位別のことを示しておりますけれども、40歳未満の教員はたった4名、35歳未満も1名しかいないという深刻な状況でございまして。それとともに、昇任人事も遅れております。なかなか昇任させられない、枠がないので、これも右側の方で囲んでありますように、実は50歳以上の准教授が13名で、40歳代の教授は1人もいないという状況でございまして。こういう状況で、なんとか先生方に頑張っていただいて、今日もお話するような活動をやっているということになります。ただ、やはりあまりにも急激な変化ですので、先生方の負担感はかなりあるということ、今、申し上げましたように、世代のギャップが大きいということで、昇任もなかなかできないということになりますと、先生方のモチベーションの維持が非常に深刻な問題だと認識しております。私共としては、機構本部にお願いしてなるべく定年退職を見越して、緩やかな削減計画をしてほしいということをお願ひしようと思っております。来年4月から改組を行うために基金に応募し、その基金で国からの支援をもらい、それを人件費に充てて、早めにその人材を雇うということをやっていきたく思っておりますが、なかなか機構本部の方が首を縦に振ってくれないという状況にあります。今日、これを最後の課題として、私、校長が申し上げるには理由がございまして、最初申し上げましたように、この会は外部評価委員会ですので、実はそういう人事に関するお願ひというか、嘆願書じゃないですけど、そういうものを機構本部に出そうと思っております。その時にぜひこの教員構成組織では将来はもたないため、配慮した方がいいという応援をしていただければ大変ありがたいと思っております、ここで私が説明させていただいている次第でございまして。

全体の概要の説明は、これで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

#### 【井原議長】

ありがとうございました。続きまして「前年度の提言等に対する改善に向けた対応」に移りたいと思います。会議資料の15ページから19ページをご覧ください。

冒頭で高松校長がおっしゃいましたけれども昨年度は二つの話題がありまして、学科改

組とアントレプレナーシップ教育についてという話題提供がございました。

これに関しまして、四つの項目に整理して提言をさせていただいております。

この四つの項目に対しまして、改善に向けた対応を検討された結果がここにまとめられているということでございます。内容に関しましては、学校側からご説明いただきたいと思っておりますので、担当委員会「点検評価室」の湯治室長からご説明をお願いします。

#### 【湯治点検評価室室長】

皆さん、こんにちは。熊本高専の点検評価室室長の湯治と申します。それでは15ページ以降の「昨年度の提言事項に対する提言」に対する改善に向けた対応につきまして、本校で結果を取りまとめましたので、ご報告いたします。前回の会議における提言事項は、2つありまして、それぞれ以下のように整理をしております。15ページの資料になりますけれども、「提言事項」、「提言事項に対する意見等の抜粋」、「対応区分」、「提言に対する点検及び改善に向けた具体的対応状況」と「改善状況の区分」につきましては、その下の表にありますように、改善が実施されているものから、今後十分な検討を要するというものまで、4段階、AからDまで区分分けされております。それでは次のページからがその具体的な結果になりますが、こちらがちょっと細かいですので、資料の方には、この色付けされております項目のところだけ抜粋して、お示しいたします。

まず提言事項の1ですけれども、こちらは「令和8年度学科改組について」に関する提言事項でして、これは、1-1から1-3まで3つ、提言がありました。

まず1-1こちらは全ての学科に対して情報教育を課し、情報探求系人材、情報融合系人材を育成するという改組の趣旨は時宜を得たものであり、力強く改革を推進していただきたい。しかしながら、ミスマッチを防ぐためにも、その内容、使用している名称等を含め中学卒業時の生徒（志願者）、その保護者等にも受け入れやすい説明・工夫の検討をお願いしたいという点検でした。

こちらの対応状況につきましては、A：「改善に向けた対応を実施しているもの」としております。この判断理由としましては、中学生にもわかりやすいように工夫されたキャッチフレーズを用いて広報を行っております。KOSEN FES やオープンキャンパス他、各種イベントで広報するとともに、ホームページや学生募集パンフレット等で広く情報提供しております。また、今後も学校紹介の動画の公開等、中学生にも分かりやすく、かつ、情報が届きやすい方法での広報を計画しております。以上の理由から、「A 対応区分」となっております。

続きまして1-2情報融合系人材の育成に関しては、7（人）×3（学科）と言わず、教育上のキャパシティが許す範囲で希望者をすべて受け入れる体制を取れないか。

こちらの提言に対しまして、対応状況ですけれども、「A」という区分で判定しております。判断理由としましては、募集人員にかかわらず、教育上のキャパシティが許す範囲で希望する学生を可能な限りこの情報コースに配属できるように計画をしております。

続きまして、1－3同じく学科改組ですけれども、国際性を意識した普遍的な教育を実践しながらも、教育機関としての高専、あるいは卒業生が地域と関わり、地域へ貢献するための活動を活発に行うことは容易ではないと思われる。工業連合会（関連企業）、熊本県、九州大学、熊本大学等との連携をうまく利用した効果的な教育・研究の充実を期待したい。

こちらの提言に対しましては、対応状況は「A」としております。判断理由としましては、各種助成事業等を積極的に活用し、従来から実施している取組を継続しつつ、これらを発展的に展開していくということから、「A」となっております。以上が改善提言1に対する対応状況の結果です。

続きまして、提言事項の2こちら1項目ですけれども「熊本高等専門学校のアントレプレナーシップ教育について」に関する提言事項です。アントレプレナーシップ教育は、高専の学生の属性（年齢や特性）に合致しており、我が国の経済、産業の復権・発展のためにも是非積極的に推進していただきたい。持続可能なアントレプレナーシップ教育の実践のために、産業界や自治体と連携を深め必要な教育資源・資金の調達に向けての工夫を期待したい。こちらの提言に対しましての対応状況は「A」としております。判断理由としましては、産業界との連携強化等を目的として、ネーミングライツ事業を新たに立ち上げ、実際に契約を締結しております。また、八代市とふるさと納税制度に係る協議を進める等、具体的な取組がなされております。配付資料の方にもありましたように、今週、早速このふるさと納税制度の給付の受付が開始されたところです。以上が、昨年度の提言に対する対応状況のご報告となります。

#### 【井原議長】

どうもありがとうございました。

ただいま説明にありましたとおり、提言した4つの事項に関する改善に向けた対応について、15ページから示されております提言1－1につきましては、もっと分かりやすくといったような提言ですが、中学生にも分かりやすいよう工夫されたキャッチフレーズ、KOSEN FESやオープンキャンパス等の各種イベントでの広報、ホームページ、パンフレット等でも分かりやすく周知しているということでございます。

2番目の提言1－2につきましては、教育上のキャパシティが許す範囲で、熊本キャンパスの方でしょうか、受け入れたいということでございます。

提言1－3につきましては、各種助成事業等を活発に利用し、それを発展的に展開していると、詳細は18ページにどんな内容があるかということが記載されております。

提言2－1につきましては、持続可能な工夫をということで、産業界との連携強化等を目的として、ネーミングライツ、あるいは八代市とのふるさと納税制度の協議を進めているということで、詳細は19ページに記載されております。4つの提言に対する自己評価は「A」ということでございます。私もこれを見させていただいて、評価できるというふうに思いますけれども、委員の先生方いかがでしょうか。

ご意見がなければ、これで承認させていただきたいというふうに思います。

(了 承)

どうもありがとうございます。

それでは早速ですけれども、一つ目の話題提供、「生き抜く力を育てる授業 ―リベラルアーツ教育の展開状況―」に移りたいと思います。最初に学校側からのご説明をお願いしたいと思います。その後委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。

説明資料は会議資料の21ページ目以降に記載されております。それでは、リベラルアーツ教育担当の池田先生の方からご説明をお願いしたいと思います。

#### 【池田リベラルアーツ教育担当】

それではよろしくお願いいたします。熊本高専八代キャンパスの池田と申します。私、アラフォーなんですけれども、先ほど、高松校長の問題提起にありましたように、本校は高齢化しております、比較的若手として、まだ活動させていただいております。多分唯一のメリットが、わりかし若手の期間が長いことぐらいかなと思っております。よろしくお願いいたします。では、お手元の資料をご覧くださいながら、話していけたらと思います。

是非、忌憚のないご意見、ご助言いただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

では前段のところを少し端折りながら、かいつまんでお話をさせていただいて特に見ていただきたい本校の実践事例ですとか、課題や課題感を持っているところ、そのあたりについて重点的にお話しさせていただきます。まず導入の背景ですけれども、そこに図を提示しているように、あらゆるところで言われてきていることですが、流動的な社会を生き抜くための力として、単なる学力、試験で計ることができるようなペーパー試験でわかるような、単なる学力ではなくもうちょっと広範なかつ根源的な力が必要だということがずっと言われてまいりました。

そういったスキルのことをいろいろなところがいろいろな呼び方のネーミングをしているのですけれども、高専ではモデルコアカリキュラムというものがございまして、こちらではこのように基盤的資質能力というふうに定義をしております。モデルコアカリキュラムというのは高専機構全体で共有しているモデルとなるコア、コアとなるスキルの一覧を示したようなガイドラインでございますけれども、こちらではこういった言葉で呼んでいますが他には人間力とか、いろいろなところで示されている社会人基礎力とか、そういったところで同様に掲げているようなコミュニケーションスキルですとか、あと自分自身のことを理解するとか、主体的に考え行動するとか、そういったことが求められてきております。こういった能力を発揮するにあたって本校ではどういうふうな取り組みをしてきた

かということですが、令和元年度に改定をしたカリキュラムにおきまして、リベラルアーツ科目というのを開講いたしました。

こちらで、学生の主体的な学びを起動することですとか、分野横断的、基盤的資質能力に対する理解を深めたり、開発の意識を醸成したりということを進めてまいりました。こちらに少し授業資料を提示しておりますが、学生にする説明としてはですね左の「リベラルアーツって？」という図にありますように、特定の専門分野に限定されないかつ、あらゆる専門分野で求められる、そして生かすことができる生き抜く上で必要となる汎用的なスキルや資質、それを習得するための科目と位置づけております。主体的学習というのが、これが本当に重要だと考えているのですが、何を学ぶかということ自分で決めて自分で目標を定め、方法も考えたうえで取り組む学習というのが実に深い学びをもたらすと考えておりまして、この主体的な学習ができる学生を育てる、そういう科目だと位置づけております。

この主体的に学ぶ学生というのが、育てられたら多分我々の仕事はほとんど終わりと言っていいぐらいに重要なところではないかと考えております。次に具体的なカリキュラムのたてつけですが、こちらに示しておりますように、手元の資料でいうと23ページの下の図を説明しております。

1年生から4年生まで各1単位の科目を必修で開講しまして、各段階で先ほど示したような資質スキルを段階的に育成しております。1年生は主に座学科目を中心とし、2年生以降はPBL活動を中心としております。PBL活動については、後ほど詳しく説明いたしますけれどもグループで協働して課題を解決するための活動をする、提案をする、そういった活動を通して、各学生が学びを深めるというスタイルの学習です。かつ、各学年に適宜講演を行ったり、アセスメントを実施したりということもやっております。昨年度のこの場で報告がありましたがアントレプレナーシップ教育とも深く関連する部分がございますので、来年度、またカリキュラムを一部改定し、少し科目名を変えたり、科目の統廃合をしたりし、基本的にはこのリベラルアーツ教育で大事にしてきた基盤的資質・能力の開発を中心に置くというところは、踏襲しております。

続いて教育実践事例に移りたいと思います。資料24ページの下の段にお示ししており1年生に向けては座学中心というのは先ほど申し上げましたが、いろいろな講義を実施しております。例えば、ここに挙げているような思考スキルですとか、キャリアデザインですとか、あるいはICTスキルとかウェルビーイングとか、そういったどの科目でも中心には取りあげられないような科目、コンテンツを1年生向けに開講しておりまして、一例としてあげているのがこの思考スキルですが、いろいろなフレームワークを用いて分析的に手法、思考する手法を身に付けてもらうというようなものです。

大谷選手の小学校のときか何かの有名になったマンダラチャートみたいな、真ん中に目標があってそこから派生する図みたいなのがありますが、あのようなものです。

いろいろなフレームワークがあるのでそれを活用して、自分自身の課題の解決に繋げて

いくつていうようなことです。

写真は、学生が赤い画面を凝視しておりますけれども、これは心理学の知見の1つに、赤と青を見ていると、それぞれ心理的な、主観的な、時間の経過が違うというのがあるらしくて、学生に1分ずつぐらいだったと思いますけど、赤と青をじっと凝視させて「今何分ずつでしたか」というのを聞いてみるというのをやって、赤の方が長く感じるらしいですけど、学生は実際、そんなに差はなかったのですが、例えばそういうことを通して、自分が学びに向かうときに、その環境を作るために、いろいろな知識とかスキルを生かす、自分が学ぶときの部屋の配色とか、そういったところまで実は自分の行動のデザインに関係するんだよ、というような文脈で、こういった授業もしております。という話をしているここに写っている教員は、実は体育の教員なので専門ではないのですが、そういう分野をいろいろ跨ぐ形での講義を実施しております。

講演会としては、脱炭素講演会というのを1年生から3年生、ここ数年はこのシリーズをずっとやっておりまして、国と県と市と、それぞれの違った立場、視点から脱炭素をどのように捉えられているのかということをお話していただいて、理解を深めるというようなことを実施しております。

さて、次は、資料の25ページのところです。

2年生以降、PBL学習を主体にしておりますが、2年生、3年生、4年生というように段階を分けて、2年生では特定の課題を設定して、それに対する解決案を考えるコンセプトを提示するところまで、3年生ではそれを実際に自分で手を動かしてやってみる、実装するという段階で、4年生ではデザインシンキングという手法を用いて、実際のユーザーを交えてPBLを実施するという、そういった3段階で難易度を上げながら実施をしてきております。実施の風景ですけれども、チームビルディングのところでは、写真のように目隠しをして、「福笑い」をチームで実施するというようなことをやっております。学生がくまモンの目玉かなんかを持って目隠しをされた状態で、5mぐらい先にある輪郭に置く、それを目隠しの状態で、周りのグループメンバーからの声かけだけでたどり着くというようにして、強制的にコミュニケーション取らないといけない状況を作り出し、チームビルディングをしているという風景です。

それから地域の子供を呼んでイベントをするグループとか、先ほどご覧いただきましたが、ファブリケーションラボで試作品を作るグループなど、こういった活動をしております。

年度の最後には「KNITSPS」というタイトルで成果報告会のようなものを実施しております。昨年度で2年目を迎えましたが、合計550人の参加で、70～80テーマで、結構大規模なものとして発展してきました。

これは資料に載せておらず今画面でしかお見せできませんが、来年2026年2月24日火曜日に、このSPSという企画を実施予定ですので、もしよろしければ、スケジュールに入れていただくと大変ありがたいです。いろんな方にご参加いただいて、ご助言等いただけ

るとありがたいと思っております。

そのSPSで報告された発表の事例をいくつか紹介しておりますが、1年生の有志の発表であったりとか、これは熊本キャンパスからのオンラインで相談してくれた学生のアプリ開発系のものであったり、資料で言うと今26ページです。八代のい草の畳店さんとのコラボレーションで活動を進めているグループですとか、ものづくり系で廃材からチョークを作り直すという活動をしているグループ、それから佐世保高専からもはるばる来て発表してくれました。また、建築系の学生は、専門に特化した空き家に関するプロジェクトを進めていたりですとか、トレンドになっているAIの関連のテーマですとか、地域に密着しているようなテーマとか、学生の関心に応じて、非常に多岐にわたるテーマをそれぞれ進めてくれています。

学生の活動がやりっぱなしでは意味がないので、その活動を通して、自分がどう成長したのかとか、自分のいろんなスキルの開発状況がどうなのかということをチェック、アセスメントするためにPROGテストとか、セルフチェックというのも行っております。

また、1年生でウェルビーイングの概要について説明はしますが、2年生から4年生までのPBL活動というのは、非常にこのウェルビーイングに関する構成要素を体験する機会に満ちております。PBLを通してウェルビーイングが高まるとというのは、ちょっと期待しすぎですけども、少なくともウェルビーイングとはこういう時に向上するんだという意識づけにはなっているかなというふうに思っております。

それでは最後の項目ですが、成果としては、いろいろな教員が関わって、いろいろな情報発信ができてきているというのが、このスライドで示していることです。お手元の資料では28ページの上の段です。28ページの下の段に示しているように、例えば内閣府の総合値の活用事例として取り上げられるなど、他の教育機関のモデルになりつつあるというところを示しております。学生の評価としては、このグッドマークで示しているように、割と好意的な反応が多くて、いつも学ばないことが学べたとか、革新的であったとか、楽しさがあったとか、グループ活動でいろいろな意見を聞くことができたとか、好意的な意見がある一方、難易度が高いとか、グループメンバーとうまくいかなかったとか、やる人とやらない人の差が大きいとか、やりたい人だけやればいいんじゃないかとか、そういった結構シビアな意見もあります。

ここまでの内容を踏まえて、我々が考えているこのリベラルアーツ教育の効果として数点まとめておりますが、まずこのプログラム自体を構築できたというのが1つの成果でして、かつ、29ページの下段ですが、学びのフィールドを広げることができたというところは、成果だったかなと思います。学んだ学生がいろんなところで、「高校生未来会議」ですとか「ゼロカーボン八代推進協議会」、そのほかマルシェの出店など、積極的に地域に貢献するようになってきたということもあります。また、概ね満足度が高く成長できたという声も聞かれるようになってきました。一方で先ほどの学生の声にもありましたが、活性化しないまま終わってしまうグループがあるなど、これはどこでもそうかもしれ

ませんけれども、マンパワー不足っていう面があって、もう少しリソースが欲しいなというところも正直ございます。また、客観的にこの教育プログラムの効果を測定するということについても検討が必要かなと思っております。

少し駆け足になりましたけれども、以上で報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。よろしく願いいたします。

#### 【井原議長】

ご説明どうもありがとうございました。

それでは、ただいま説明のありました「生き抜く力を育てる授業 ―リベラルアーツ教育の展開状況―」の説明につきまして、委員の皆様からのご質問、ご意見をお願いしたいと思います。

#### 【井原議長】

最初、リベラルアーツを高専でもやってるんだと、第一印象としてはそう思いました。リベラルアーツというのは、極端な話、世界的な共通言語、英語よりもむしろ重要ではないかと私は思っていて、非常にいいところに目をつけられていると思うのですが、やっている内容を今伺いして思ったのは、これは一般的なリベラルアーツと言うのでしょうか。例えば、大学の教養では、文学、経済、法律、倫理学、いろいろなものの勉強をやらないといけません、私のイメージではそういったものを含めたものがリベラルアーツなのかなと思っていたんですが、どちらかというと、例えば、熊大でも同様のことを自由参加型でやっておりますが、こちらについては、イノベーションリーダー育成プログラムとっております。このリベラルアーツの定義について、今説明されたようなものを一般的にリベラルアーツと呼ぶのでしょうか。

#### 【池田リベラルアーツ教育担当】

ありがとうございます。リベラルアーツという言葉自体が結構概念として、守備範囲が広いところがありまして、一般的に教養課程そのものを示すこともあります。近年使われているリベラルアーツに注目されている言葉のニュアンスとしては、先ほど提示したような、生きる力のようなものを育成するためのもので、そのためにそのいろんな分野の中に閉じこもらずに、横断的な知識も必要だし、それを結びつけたり活用したりということが必要だという発想のもとに行われる教育というような、大きな捉え方をするとしたら、先ほど提示した1年生のいろんなコンテンツの展開ですとか、そこから先の2年生から、本校では3学科の学生が共同して、建築とか土木とか機械とか生物とか、それぞれの専門知識を活かし合いながら、何か課題に取り組むということをしておりますので、そういった学際的というか、分野を超えて、なにか解決を図るという視点に関して言えば、リベラルアーツという言葉でくくることができるのではないかと考えております。少し言葉の意味は広いので、単な

る教養課程とかいう捉え方をすることもあります。

【井原議長】

いわゆる非認知能力みたいな感じでしょうか。

【池田リベラルアーツ教育担当】

そうですね。

【井原議長】

調査によると、将来の年収は認知能力より非認知能力との相関の方が高くてやっぱり生き抜く力とか、問題解決能力とか、頑張り抜く力とか、そういったものがやはり将来の収入には大きな相関があるということらしいので、その重要性は論を待たないところなので、少し定義の話をさせていただきました。委員の先生方から何かございますでしょうか。

【二宮委員】

教育の専門家ではないのですが、当社は大卒、高専卒、高卒がおりまして、高校卒の割合が非常に多いです。実は昇格あるいは役員に就任する人間も高卒の人間が非常に多くて、先々週、社長交代発表をさせていただいたのですが、新社長は熊本工業高校の機械科卒です。高卒の人間というのは、さっき、議長の方から紹介がありましたが、生き抜く力、やり抜く力と言いますけれど、うちは設備、機械、自動化の生産設備を作っている会社で、それを例えば北米のお客様のところに行って行って、仕上げないと帰れないという体験を、若い時に非常にタフアサインメントという、そういう経験を若い時にしておそらく大卒の人とかが4年間大学にいる間に、4年間で非常にシビアな生き抜く力を身につけて、その中でリーダーシップとかコミュニケーション能力とか問題解決力というのを必要に迫られて、身につけて、その中から上がっていく人材、会社を引っ張っていく人材というのがどうもできてきているような印象を持っています。私も教育の専門家だったら、そこを1回研究してみたいのですが、そういうバックボーンがないので非常に難しいのですが、企業でのそういう経験や実績というのは、高専さんの方でも非常に参考にさせていただけるのかなとは思っています。ただ、高卒の新しい新社長とも今日話してきたのですが、いろんなことを勉強したけど、あの体系化がやっぱり自分はできてない、やっぱりそこは大卒とか高専卒とか、しっかり勉強した人の方が優れているっていうことをおっしゃっていて、そのやはり高卒で上がってきている人の特性としては、先ほど言われた生き抜く力とか、やりぬく力とかと併せて謙虚さを持っているんですね。それで、自分は高卒だから、やっぱり知識の部分では頭がいい人にはかなわないという思いをどこかに持っていて、そこでやはり学びにつながっていく、そういうのがあって、非常に良い素材がうちの会社の中にも転がっているのかなと感じております。

**【井原議長】**

ありがとうございます。まさに本当におっしゃるとおりで、一昔前なら、実践で皆さん勉強してきつと身につけていたと思うのですが、おそらくアントレプレナーシップ教育もそうですが、体系化して教えることができるということだと思っうんですね。これはそういう試みではないかなと思います。

**【池田リベラルアーツ教育担当】**

今の話で、本校で実施しているアセスメントの中に、この PROG テストというのがあると申し上げましたが、この PROG テストは、リアテク社というところが実施しているものなのですが、ここでコンピテンシーとして構成されています。さっき出てきました基盤的資質能力とか、生き抜く力みたいなものですが、これがなぜこう定義されたかという、大規模調査で、社会で成果を上げているハイコンピテンシーな活躍をしている社会人がどんなスキルを持っているのかということをもとに整理されているもので、それを学生も測定できるというのがこれなんですけれども、だからまさにそういった意味では、おっしゃったように、こういう力が高い学生が社会に出て活躍するという、まさにそのとおりだというふうに思います。

**【井原議長】**

本来、これでこのリベラルアーツ教育を実践する前と後で、本当はデータを取りたかった、取ればよかったんでしょうね。

**【池田リベラルアーツ教育担当】**

はい。そのデータも実はありますが、定量的な評価が難しいと書きましたが、そのリベラルアーツ教育開始前の同じ学年の PROG テストと比較した時に優位な差がありませんでした。1年目は上がったのですが、2年目は下がっています。それで、どうしてかなと見た時に、1年生の時の値、初期値に結構引っ張られているところがあって、いろんな要素が関係するので、教育プログラムだけの影響とはっきりいえることができないという意味で、その定量的な評価が難しいというところですね。

**【井原議長】**

これ1単位だから、その間、普通の活動でその力が上がってるはずなので。

**【池田リベラルアーツ教育担当】**

はい。

【井原議長】

確かにですね。

【池田リベラルアーツ教育担当】

はい。1年生が入ってきた時点で妙に高い学年とかもあって、そこはなんとも、難しいところですよ。

【井原議長】

いわゆる教養教育という感じではないのですね。むしろなんかPBLとか、問題解決型の教育というか。

【池田リベラルアーツ教育担当】

そうですね。それを中心にして、教養教育、一般科目はすでに国語、社会、好きなものがあるので、それとは別に、その提案判断的能力、基盤的資質能力の開発に特化した科目として設計しております。

【井原議長】

でも、この種の教育はすごく難しいですね。おそらく教員の力量で、ゼロ・イチで変わる。例えば、探究型学習って今はよく言われていますね。あれはやはり成績のいい子はすごくいいけど、悪い子はあまり良くないらしいんですよ。だからいわゆる非認知能力を養う授業に時間を費やしてしまうと、逆に学力が下がるという調査結果もある。意味があることは間違いないので、やはり教員の力量に依存するのではないかなと。そういう場合はどうされるんですか、これを教える先生方は、普通の専門の先生方ですよ。

【池田リベラルアーツ教育担当】

そうですね。一般科目と専門科目問わずです。

【井原議長】

この専門の先生っていうのは多分いないわけで。リベラルアーツ専門の先生っておられないですよ。

【池田リベラルアーツ教育担当】

そうですね。いないです。

【井原議長】

そういう面で言うと、かなり難しいですね。どこかで研修を受けたりされるのですか。

**【池田リベラルアーツ教育担当】**

そうですね、自主的にそれぞれ勉強したりですとか、持ち寄ってきた知見を共有したりとかしていますけれども、割とやりながらいろんな事例を見たりとか。令和元年度から始まってやりながら、もっとこうしたらいいかなとか。あと他高専でもこういったことやっている事例もあるので、そういうところと情報共有しながら、改善を続けてきているというところで、その専門の教員はいないのですが、逆に言うと、いろいろな科目とか、いろいろな専門分野の教員が寄り集まって、進めているようなところがあるので、そういう意味では、困ったら「あの専門の先生も関わっているから聞けるよね」と、いいところもあるのですが、マンパワー不足です。申し上げたように、やろうとすればするほど、さっき教員の力量とおっしゃいましたが、グループごとに密に見ていかないといけないとなった時には、やはりリソースが不足するという状況はあります。

**【井原議長】**

最後に出てきている課題みたいな感じですかね。

**【中山委員】**

ちょっと教えていただきたいのですが、評価の方はどういう形を取られているのですか、点数をつけたりとか。

**【池田リベラルアーツ教育担当】**

学年によって異なりますが、2年生までは点数での評価をしておりません。合否判定にしており、このような講演ですとか、まず体験してもらうことが目的ですので、その活動に参加して、自分のセルフアセスメントをして、という学習活動ができれば良いということにしております。3年生以降は成績評価をしていますが、活動したプロジェクトの良し悪しと、その活動に従事した自分自身の振り返り、また、グループとしてその活動に対して、どのようにコミットできたかという振り返りも含めて、というように、いくつかの要素を組み合わせるようになっています。例えば、一生懸命やったけど、プロジェクトが全然ダメだったという時に、すごく低い点数だとあまりにも報われないのでそれはそれとして、プロジェクトとしては完成度が低くても、よく活動して、よく振り返って、よく役割分担をできたということが確認できたら点数リカバリーできる、というような複合的ないくつかの視点を組み合わせた評価を3年生以上でやっております。

**【中山委員】**

ありがとうございます。その評価の中で、全体を見ていただいて、通常、他の教科で点数がいい子がやっぱり良くなるという傾向にあるんでしょうか。

**【池田リベラルアーツ教育担当】**

はい、概ね関連していると思います。他の科目もまんべんなく点数を取っている学生は一生懸命取り組むし、もし他の科目で大変成績がいい子が、あまりプロジェクトがうまくいかなかったとなった時には、その分の点数をリカバリーできる方法が提示されていれば、それに一生懸命取り組むので、自分の分を振り返って一生懸命して、長いレポート書いてきて、今これだけ頑張っただけ成長しましたということを見せつけたりしてくるので、各科目いい点を取ってやろうというモチベーションがある子は、やっぱりいい点数を取ってきます。その逆もしかりで、あまり、アクティブになってない学生というのは、他の科目もそんなに良くないこともあります。面白いのが、他の科目で寝ているけど、この時だけ元気という子も一部ですがあります。面白いところは、概ね関連しているということだと思います。

**【中山委員】**

ありがとうございました。

**【井原議長】**

他に何かございませんでしょうか。

**【星田委員】**

中学校長会の星田と言います。とても勉強させていただいたなと思います。私は義務下におりますので、主体的な学びをテーマにした授業ということで、高校も同じだと思いますけど、主体的、対話的な深い学びということで、うちの学校でも授業研究をやっておりますが、深い学びに入ることがなかなか難しいため、知識をつなぎ合わせながら、やっていく深い学びに非常に課題を持っております。先ほどの探究的な学習で、中学校、小学校義務下で言えば、総合的な時間の学習の場合は、先ほど評価の話もありましたけど、言葉で子供たちが評価をして、どんな成長が見られたかというのをやっています。それから個別最適な学びと協同的な学び、そういうのをとても取り入れられて義務下の上に行く取り組みをされているのがやっぱりつながっているのかなということも思いました。

それから、いろんな教科の先生という話がありましたが、中学校で言えば教科横断的な学習もやります。総合的な授業の中で、「社会ではこうやって」、「国語的な面ではこうやって」、「技術・家庭ではこうやって」とか、最終的に発表するところが、総合授業ですね。表現ですから、社会だったり。そういうがあるので、高専の方でこうやってされているのが、私はなんか非常に義務下のやっていることをさらに発展した取り組みをされているんだなあとということで、非常に勉強になりました。これも下の方に返していかなきゃならないなあとということで、一つ聞きたかったのは、1年生から4年生までありますが、それぞれ目指す

ところがあると思います。1年生はここまですべてほしい、2年生はここまでのか、そういうところをどう考えられているのか、教えてください。

**【池田リベラルアーツ教育担当】**

ご質問ありがとうございます。1年生から（23 ページ下部）科目名を示しておりますが、概ね、ここに記載しておりますように、先ほど提示したいろんなその汎用的な力の割と初歩的なところから難解的で難しいところ、このエンジニアリングデザインとかになると、やっぱり一年生たちでは歯が立たないかなり高度な内容になると思うので、まずはアカデミックスキルとか、主体的な学びとは何かみたいなことへの理解とか、分野の基盤的資質能力とは何かということに関する認知とか、そういったところから始めるという、段階的设计によって、その到達目標設定はしております。実際は、もう1年生からエンジニアリングデザインを行っている学生もいれば、高学年になってまだアカデミックスキルができていないのではという学生もいて、これがまさに先ほどおっしゃった個別最適な学びにつながると思いますが、一応カリキュラムの建て付けとしては、段階を追った形にしております。学生個々によって、どこかでどれかを身につけてもらったらいいいかなという認識です。グループ活動をする中でも、ずっと貢献できなかつたり、最後の方にできるという子もいたりするかもしれないですし、逆に最初の方はうまくいったけど、うまくいかなくなっていくということもあると思いますので、まずこのようなスキルがあって、このように段階的に発展していくことを求めているということは提示しますが、実際は学生それぞれの個々の学びというのを、ある程度許容するというか、そのような認識をしているところでございます。

**【星田委員】**

ありがとうございます。

**【井原議長】**

それでは、いくつかご意見もいただきましたので、整理いたしますと、なかなか難しいのですが、私たちの世代、こういうことを体系的にやっておらず、受けたこともないわけですが、整理すると、どうモニターするのか、あるいは目標をどう設定するのかが大変だろうと思います。それと、実施する教員の標準化、力の標準化、例えば担当する教員によっても、もしかしたら当たり外れがあるかもしれないなという気がいたしましたので、その他の高専とも情報交換されたらいいのかなと思います。それと、最後の方に書かれていましたが、アントレプレナーシップと内容が半分以上重なるのかなという印象だから、そことあまり重複にならないような形できちんと体系化して、うまいネーミングで整理されるといいのではないかと感じます。

**【池田リベラルアーツ教育担当】**

はい。ありがとうございます。

**【井原議長】**

それでは、ここで5分程度の休憩を取らせていただきます。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・(休憩5分)・・・・・・・・・・・・・・・・・・

**【井原議長】**

それでは、2つ目の話題提供の地域貢献活動についての話に移りたいと思います。説明資料は31ページ以降になります。先ほどと同様、学校側からの説明を受け、その後、委員の皆様からのご意見を頂戴したいと思います。それでは総務主事の田中裕一先生からご説明お願いしたいと思います。

**【田中総務主事】**

はい。総務主事・社会連携・研究支援室長の田中裕一です。地域貢献活動について、本校が、特色ある地域貢献活動等と考えている4項目について説明します。

まず最初が、本校学生向けの連携教育です。

32ページです。本校学生向けの連携教育として、地域連携による課題解決型の教育で、「新・閃きイノベーション」は、2017年度から熊本県工業連合会様との連携で実施しており、また、「リベラルアーツ実践」は、課外ではなくて正課で実施しております。

二つ目が長期インターンシップで、「東京エレクトロン九州・熊本高専連携研究型人材育成プログラム」、それから「肥後銀行長期インターンシップ」を実施しております。

「新・閃きイノベーション」については、実際に企業で問題となっている現実の課題を提示していただきまして、学生グループが解決方法を考えるプロトタイプの作成やシミュレーションを行うPBLを実施しております。2024年度の発表会も両キャンパスの参加者をオンラインでつないだハイブリッド形式で開催しております。そこに課題名と出題企業名を挙げておりまして、熊本キャンパスと八代キャンパスを対面で開催・実施しております。今年度は、発表した8グループの他にも、あらかじめ、県工連さんの案内の時点で、課題名と出題企業名を案内していただき開催しております。

次に34ページです。

東京エレクトロン九州(TKL)さんとの連携研究型人材育成プログラムは、2019年度から実施しております。毎年20名程度、金曜日の午後と長期休暇期間中に実施しており、年2回の成果発表会を実施しております。

TKLのエンジニアの方と高専教員が共同で指導する長期インターンシップで、右の下の方に第13回学生成果発表会を10月3日に開催した写真を載せております。

肥後銀行の長期インターンシップについては、2022年度から長期休暇期間中に実施してお

りまして、対象は専攻科1年生です、実際に業務への利用を目標にした本校OBのエンジニアの指導の下、生成AIを活用したアプリのプロトタイプ開発を実施しております。2022年度から2025年度までの参加者の実績、それから最終成果報告会の様子の写真と、右下の方には参考までに日程と内容を載せております。

次に、学外向けの地域貢献活動です。

小・中・高生対象の啓発活動（半導体関係）については、自治体や地域と連携した出前事業ということで、熊本県、熊本市、それから「ながさき半導体ネットワーク」（長崎県や地元企業との連携）などと連携して、35ページ左の上から、高校生向けの検定対策講座、中学生の出前授業、小・中学生向けの半導体授業、半導体認知度向上動画の制作・監修などを実施しております。

次に36ページですが、STEAM教育にも力を入れて実施しておりまして、令和6年度の実績、令和7年度につきましては10月21日時点での実績を載せております。

上の方から本校、「熊本高専ハカセ塾」、右で坂本中学校の「半導体の講座」、講座化しております。中段ですけれども、「八代こども科学フェア」、それから熊本市の熊本駅前、アミュプラザで実施しております「わいわい工作わくわく実験ひろば」、それから下段になりますと、「菊南ロータリークラブロケット教室」、二番目はあの「出前授業」といっておりますけれど、熊本キャンパスの方で招待している授業、それから龍峯小学校、一番下グランメッセで毎年参加しております「青少年のための科学の祭典熊本大会」となっております。

36ページの下の方は、今年度の実績を途中まで載せております。

37ページですと、プログラミング教育にも力を入れておりまして、熊本日日新聞社さん主催の小学生プログラミング教育に協力しました。これは本校の公式WEBの記事を載せております。

二番目は、熊本県との協定に基づき、熊本県教諭を対象としたプログラミング教育研修を実施しました。両キャンパスで全10日間、昨年度に続き今回が3回目となる研修には百数名の先生が参加されました。それから、本校学生のチームが、鹿児島県の下甕島でプログラミング教育を開催したという記事を載せております。これは、旅費などを学生チームがクラウドファンディングで集めまして、「ドクターコート診療所」のモデルの診療所ではないかと思えますけれども、その離島での教育格差を解消しようということで開催したものです。結構、成功例かなと思いましたので載せております。

公開講座としては3件ございます。八代キャンパスでScratchプログラミング入門講座を実施しました。これは協定に基づくものでもあります。37ページ下部です。真ん中がミニ四駆をラジコン化しようということで、2日間にわたり熊本キャンパスで、結構凝った内容で実施をしました。そして最後に、八代キャンパスでScratchプログラミングを実施しております。

38ページ。今年は、市民講座「未来をひらく火薬の科学～やつしろの花火から宇宙探査まで～」も開催し、9月6日に桜十字ホールやつしろで約200名の地域の子もたちや市民に

参加いただきました。八代市の全国花火競技大会のプレイベント的なものでもありました。③その他の連携活動としては、昨年度この会でご提言いただいた一つの解になってるかなと思って載せておりますが、KOSEN Global Camp 2025 in Kumamoto でスマート防災、オーバーツーリズムの解決に取り組むアイデアソンということで、1週間程度実施しました。参加学生は、九州沖縄地区の高専生、海外はシンガポールの Temasek Polytechnic、タイの PCSHS Loei (プリンセスチュラポンサイエンスハイスクール)、それから、運営学生は本校の学生で留学生も含まれる総勢 61 名で、学生主体の活動、国際棟での共同生活、育成したい力というものを右の方に載せております。

アイデアソンの課題では、JTB 熊本様の小国の鍋ヶ滝の事例、合志市社会福祉協議会様の有識者による導入講演、中段では金剛株式会社様の工場見学、阿蘇山、震災ミュージアム KIOKU、熊本城防災セミナーと観光地見学などを行いまして、下段のようにチームビルディング、夏祭りイベント、誕生会、花火とフェアウェルパーティと楽しく実施することができました。

これまでの国際化教育の代表的な写真を載せているのが 40 ページになります。

一番右上が香港です。それからシンガポールの研修旅行、一番左下の ADTEC は、マレーシアの職業訓練的な学校の研修となり、八代の企業様の方も見学をさせていただいております、ハノイの大学表敬訪問や、短期留学生との交流も含まれております。

41 ページ、留学生は地域とも交流をしており、熊本キャンパスの学生が、合志市国際交流会の皆さんと上庄地区の竹迫城跡公園一帯で「ほたる祭り」に参加して感動したという記事ですとか、八代キャンパスの学生も毎年、異文化交流「異文化カフェ」や、やつしる国際協会の皆さんと交流している様子を写真として載せております。

最後に、財政面の活動について説明します。

42 ページのふるさと納税制度の活用についてです。背景と課題について示しておりまして、全国の国立高専に「ふるさと納税を活用して寄付金を獲得しているか」というアンケートがあり、その結果を載せております。先行して実施されている佐世保モデルを参考にしまして、クラウドファンディング型のプロジェクト(アントレプレナーシップ醸成事業展開型)応援事業ということで先日、八代市次世代創業者等育成事業 10 月末締め切りに応募いたしまして、11 月 18 日から寄付受付開始をしております。タイトルとしては、「地域とともに学び課題解決する熊本高専ファーストペンギンスプロジェクト」ということで、4 項目実施をする予定です。配付資料にもありますけれども、チラシの表裏を載せておりますので、お知り合いの方等、是非お知らせいただければありがたいと存じます。

ネーミングライツ事業も実施しておりまして、43 ページですね、八代キャンパスにて三井三池製作所のネーミングライツ施設開設記念式典を挙行いたしました。三年間、第一体育館が「さんさく不知火アリーナ」となっております。ネーミングライツ広告パートナーの募集もしておりまして、メリットとしては、本校との連携強化、学生・企業の知名度アップ、企業の社会的評価の向上などが挙げられるかと存じます。

課題については、すでに前の発表で出ていますので、私の発表は以上とさせていただきます。

**【井原議長】**

田中先生、どうもありがとうございました。それでは、ただいまの発表に対しまして、ご意見等、委員の方からお願いします。

**【前田委員】**

熊本日日新聞の前田と申します。前回は「新・閃きイノベーション」での関係でもお話をさせていただいたのですが、企業と学校とのつながり、連携というのは非常に大事だと思っておりまして、特に熊本県内の企業を、学生たちが、子供たちが知る機会になるでしょうし、冒頭の説明で言うと、県内就職が 13%と若干増えたということでしたけれども、やはり全体的には県外に流出をされている。これは高専だけではなくて、熊本の若者がどんどん外に流出しているという状況がまだ進んでいるので、なるべく熊本に就職をしてもらうような形になる一助になるのではないかなと思っております。これも引き続き、取り組んでいただければと思います。いろいろ企業との課題解決というところでの措置だと思えますけれども、先ほど冒頭（校内見学）で見せていただいた中で、「栗の収穫ロボット」だったり、海藻ですとかの研究をされていたりとか、折角あのような研究、いろいろな地域課題的なものの解決につながるような取り組みや研究などもされているでしょうから、もう少し情報発信をしていくと、もっとそれをベースにまた企業さんがつながろうというような取り組みもあるのかなと思えました。それともう一つ、社会的な地域課題という観点でいくと、今熊本で TSMC がやってきて、いい面として経済的な効果はあるのですが、一方で、渋滞や地下水の問題など非常に大きな課題が出ていますので、そういったところへのアプローチを何かやっていただくと、非常にまた地域とのつながりという部分で深まりが出てくるのではないかなと感じています。これはもう要望ということで、お伝えいたしておきます。

**【井原議長】**

ありがとうございます。他ございませんでしょうか。

**【宮村委員】**

熊本県工業連合会の宮村です。「新・閃きイノベーション」の方は、もうだいぶ長いこと一かかわらせていただいているのですが、学生さんはどのぐらいの時間を課題解決するために使えるんですか。

**【田中総務主事】**

そうですね、企業さんと学年によってもまちまちです。前年度に解決できない場合は、それを、その次の後輩に引き継ぐグループもありますし、ただ、基本的にはその年度だったり、

前期、後期の半期、あるいは短く区切られる。企業さんがご配慮いただいた場合には、数ヶ月、その辺のスパンでかなり幅はありますけれども、そのような取り組み方、課題内容や学年によると思います。

#### 【宮村委員】

学年とテーマによって違うものなのですね。

そうですね。企業にとっては、直面している課題を違う観点から考えていただける機会が一つと、自分たちの企業、地場の企業を知っていただく機会が一つと二つの機会があると思うので、もしよろしければこの授業はもっと深堀りをしていただきたい。何回か発表会を聞いたのですが、学生さんが、なんか興味を持ってきていないのじゃないかな、というようなことも時々思ったりするので。そこがもう少しマッチングできれば、学生さんもちょっと本気になってやってくれるし、企業もとりあえず課題出しとこうかみたいなことだと、ちょっとつまらなくなるので。長年やっているの、再度、もう少し中身をいろいろ検討してやるといいのかなと少し感じています。先ほど企業と学校とがどう関わっていくかというところで、企業側としては、工業連合会の会員で言えば、本当にウェルカムな状態なので。高専さんはちょっと敷居が高いですけども、ほとんどの課題は人材確保をどうやるかということなので、今も工業高校などに一生懸命一本釣りで、先生とコミュニケーションをとって、なるべく就職につながるような活動をやっていますし、今、県工連でもちょっと考えているのは、地場の学校さんに見学に来ていただく、保護者と学生と両方に来ていただくような企画を考えたりもしていますので、将来的には熊本に戻って来ていただくとか、熊本の産業発展のために、高専の学生さんが起業していただけると一番いいことだと思います。県工連だけではなく、最近グリーンイノベーション協議会も立ち上がりまして、あそこは半導体に特化した人材教育を、東京エレクトロンさんとかソニーさんとか JASM さんが中心となってやられています。また、学生さんとのテーマはいろいろあると思いますので、そういうことも遠慮なく、意見交換をさせていただいて、実現できるものであれば実現していただければなと思っています。県も今日いらっしゃっているので、「くまもとサイエンスパーク構想」もそうですし、半導体のみならず熊本県の工業のものづくりの発展のために、産学官金、情報交換しながら、いろんな団体であると思うのですが、同じようなことをそれぞれやられているようなことがたくさんあるので、もったいないなと思うことがかなりあります。そういったことを知らなかったら、「そこもやっているんですね。うちもやっているんです。」みたいな。そこはなにか力を合わせて予算を一つにしてやれば、もっとなんかスタートアップにしてもできるのにな、と思うことがあるので、まずは情報共有をするようなことを努めてやっていく。工業連合会も、学校側も、県も情報提供していただければ、もっと具体的に、密に活動ができるのかなと思うこともありますので、そういうことを、しっかりやっていきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

**【井原議長】**

大変有益なご意見どうもありがとうございます。確かに、産業界としては優秀な学生が欲しいし、高専としてはPBLの教育になればいいし、さらに地域貢献になればいい。三つの色々な思惑、狙いがきちんとマッチすればいいと思うのですが、例えば、これは単位になるんですか。

**【田中総務主事】**

近年、割と授業に組み込むような動きが増えてきていまして、最近も企業さんの方から、授業で1コマという話も増えているように実感しております。まったく何もそういうのと絡まないというのは、課外の活動になってしまいますので、両者の負担が増えてしまいますので、なるべく正課というのが理にかなっているかなと思います。

**【井原議長】**

単位化されているのかということなんですけど。

**【濱邊教務主事（八代C）】**

八代キャンパスの教務主事の濱邊と申します。単位化の話ですけれども、実践プロジェクトという科目を用意しておりまして、そちらで30時間活動したら1単位ということで、多くの学生が単位の申請をしてくれています。こういう取り組みもですし、コンテストに参加すると言って、結構、建築系の学生とか、いろいろ設計コンテストにかなり挑戦をしております。多数単位を認定しております。

**【井原議長】**

ありがとうございます。単位化することはやっぱり重要だと思いますが、単位化すると、逆にやる気のない学生がもしかしたら受講してしまうという弊害もあるのかなとも思います。

**【濱邊教務主事（八代C）】**

そうではなくて、おそらくやる気のある学生だけが単位を申請してくるような気がしています。そのやる気のない学生はおそらくそういう選択科目単位欲しさということは、課外活動をやはり30時間取り組まないといけないので、だからやる気のある学生だけが申請していると思います。

**【井原議長】**

ありがとうございます。

**【小田川教務主事（熊本C）】**

熊本キャンパスの方は、この「新・閃きイノベーション」は授業の一環でやっています。それでクラスとか学年とか違うので、一番短いのは学生実験の一部でやるという大体 8 週ぐらいのテーマが簡単なことで、あとは今日やりましたリベラルアーツ実践 2 とか 3 とか授業としてやっています。自由参加とか希望者だけということは、課外活動となります。正直なところ学生が集まらない、参加しないです。学生には今やることがいっぱいあるので、熊本キャンパスとしては、必修科目の授業の中の一環としてやっていますので、中にはいやいや参加している学生もいるかもしれませんが、そうならないようにモチベーションを持たせるため、熊本キャンパスでは自分たちで企業さんを選んで、自分たちで企業さんに連絡してアポを取って、課題を話しあいながら見つけなさいというやり方を進めています。

**【井原議長】**

私もそこをお聞きしたかったのですが、PBL とかアイデアソンというのは、まさに先ほどのリベラルアーツに十分組み込めるので、実際にあるわけですね。リベラルアーツとかこの活動、今度は別の視点でいくと、県や工業連合会の方では、いろんなサイトが似たようなことをやってる。だからお互いにもっと俯瞰して、いろんなことを整理した方がいいんだろうと思いますね。

**【宮村委員】**

先ほど、校内見学させていただいて、工作機械とかいっぱいあったのですが、あれは企業に来てもらって、例えば溶接とかもされているのでしょうか。

**【田中総務主事】**

溶接もやります。

**【宮村委員】**

県工連の会員企業で、県北の方の板金屋さんで精密板金をやっている会社なんですけど、地元の工業高校の先生が溶接を教えられないから教えてくださいと頼まれて、企業側も学生とコミュニケーションをとる良い機会だし、こんなに近くにこんな会社があったんだと知っていただく機会があって、継続してやっているみたいなんですけど、高専さんでも何かそのようなお困りとかありますか。

**【田中総務主事】**

やはり人材育成という点でも年数のかかることですので、経験のある人じゃないとできないというところもあります。個人的にいろいろな講習会・研修会に行っている人もいますが、ちょっと難しい場合もありますので、最近はやはり企業さんの方で詳しい、よくできる熟練の方とかオフィシャルなネットワークではありませんが、個人的なネットワークでそ

こを担保してるというのが実情です。

**【宮村委員】**

もしそういうことがありましたら、ご相談いただければ対応できることもあるかと思えますので、是非、おっしゃってください。

**【井原議長】**

もうあまり時間もないですけど、県の方から何かないですか。

**【中島委員】**

熊本県の中島でございます。先ほど、議長からも話がありましたが、いわゆる教育機関と、産業界、それと僕ら行政の立場でいうと、例えば地域振興だったり、県内経済の活性化だったり、こういうものがいい具合にそれぞれ回っていくといいかなと思っています。先ほどから、例えば TSMC の話が出ていますけれども、熊本県で言うと、1960 年代に三菱電機さんが合志市に移されて以降、半導体関連産業の集積ってというのは、地道についてきたところなんですけど、JASM さんの進出によって、それを契機にして、やはりいろんな流れが変わってきてるのかなと思っています。特に、最近で申し上げますと、さっき宮村さんからも話がありましたが、県としては「くまもとサイエンスパーク」の実現に向けた取り組みを進めておりまして、特に半導体のその製造分野だけではなくて、応用アプリケーションとか、AI とか、そういう半導体を応用して使っていただけるような企業さんにも来ていただきたいなと思っております。そこで、この高専さんで申し上げますと、県内から高専さんに来る学生さんが確か 94% から 95% だったと思います。それで、さっき前田委員からもありましたけれども、県内の就職率が 13% 程度ということで、僕ら行政としても、やはり高度人材を、熊本県内に残っていただけるような取り組みを推進していきたいと思っておりますので、是非、よろしくお願ひしますということと、あとはやはり地場企業の振興というのも、今、力を入れておりますので、是非、工業連合会さんとも連携でというような形が取ればいいかなと思っています。こういう機会を通じて、いろいろ意見交換をさせていただければと思っておりますので、是非、今後ともよろしくお願ひいたします。

**【井原議長】**

ありがとうございました。簡単にまとめさせていただきますと、非常に素晴らしい取り組みだと思いますので、企業との繋がりが非常に重要で企業とのマッチング、あるいは地域への貢献、教育機関としての役割ですね、その辺りのマッチングも考えながらさらに充実させていただければと思います。

それでは、ここで 2 件の話題提供について、いただきましたご意見をもとに取りまとめさせていただきます。我々委員のみで別室にて整理したいと思いますので、お手数

ですけれども、委員の方ご移動をお願いします。5分から10分程度で終わりましたこちらにお集まりいただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

【司会（総務課長）】

本校の関係者の方も5分程度休憩されて結構ですので、よろしくお願い申し上げます。

：：：：：：：中座：：：：：：

【井原議長】

お時間いただきまして、今、委員と別室でお話をさせていただきまして、2題、話題提供いただきましたけれども、最初のリベラルアーツの方に関しましては、話にも出たとおり、目標設定あるいはモニタリングというのは非常に難しいと考えましたので、そちらの方を工夫することができれば、お願いしたいということ。

それと、それぞれの教員間の標準化、あるいは高専のネットワーク等を使ったスキルアップをやってはどうでしょうか。また、アントレプレナーシップとだいぶ重なる部分があると思いますので、そことの融合といいますか、うまく体系化をしてはどうでしょうか、ということをご提言させていただきたいと思います。

後半の方に関しましては、いろいろな企業とのPBL等がありましたけれども、社会への貢献、例えば防災等に関して、SNSを使って発信をうまくやっていただいたり、あるいはアプリを作って、例えば避難者の管理をしたりとか、そういう高専の学生さんならではのスキルを利用した社会貢献というものも考えられるのではないかというご意見がございました。それと、非常にいい取り組みをされているので、この情報発信をもっと積極的にやられてはどうでしょうか、という内容をご意見としてまとめさせていただきたいと思います。まとめる作業は、私の方で一任させていただいてよろしいですか。高専の方とも相談をしまして、提言としてまとめさせていただきたいと思います。

：：：：：：（了承）：：：：～

委員の皆様から、議題に関する以外でも結構でございますので、高専に対しまして何かご意見、ご要望等ございますでしょうか。全体的に、もし委員の皆さんからあれば、よろしいでしょうか。

：：：：（なし）：：～

はい。ありがとうございました。

それでは、私の方でこちらの意見を取りまとめさせていただきたいと思います。それでは終了予定の時間となりました。

令和7年度熊本高等専門学校運営諮問会議を終了したいと思います。ご協力どうもありがとうございました。

**【司会（総務課長）】**

委員の皆様、長時間の会議、大変お疲れ様でございました。ここで高松校長から、閉会のご挨拶を申し上げます。

**【高松校長】**

本日はお忙しいところ、ご出席いただき貴重なご意見を賜りまして、どうもありがとうございました。今、二点につきまして、ご意見を伺って、本当はここで、それに対して私の考えを申し上げることも可能ですけど、もう時間が過ぎておりますので、これは来年度の提言に対してお答えしたいと思います。ただ、本当に、その発信が重要、宮村委員が言われたように、どう連携するか、今日のキーワードですね。いかに取り組みが良くても、それをどう実質的に効率化していくかというところを、考えなさいというふうに私は捉えましたので、その辺じっくり考えたいと思います。すごく難しいところではあると思います。特に最初の問題ですが、できるだけ教育的効果が上がるように検討していきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしく願います。今日はどうもありがとうございました。

**【司会（総務課長）】**

これもちまして、本日の日程を終了いたします。本日の会議の議事要旨につきまして、後日、各委員の皆様方に案をお送りし、ご確認をいただく予定にしておりますので、どうぞよろしく願います。

本日は誠にありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

## 運営諮問会議における提言事項

### ◆「生き抜く力を育てる授業 ―リベラルアーツ教育の展開状況―」に関する提言事項

提言 1-1	<p>生き抜く力を育むための教育はきわめて重要な取り組みである。非認知能力を培うことは大切であるが、非認知能力であるだけにその教育方法の有効性の定量化は不可能であり、その効果をすぐに教育方法にフィードバックすることは難しい。そうであれば、指導者の力量を保証することがますます重要である。指導方法のある程度標準化すること、また、他高専等とも連携した教育スキル向上のための取り組み等に期待する。</p>
--------	---

#### ◇関連意見等抜粋

- 経験を通じて、生き抜く力、リーダーシップ、コミュニケーション能力、問題解決力を必要に迫られて身につけている。【二宮委員】
- 教育の効果は教員の力量に依存する部分が多い。探究型学習でも、成績の良い学生は伸びるが、そうでない学生は逆に学力が下がるという調査結果もある。教員の力量を担保することが重要と考える。【井原議長】
- どうモニターするのか、あるいは目標をどう設定するのかということが大変。また、実施する教員の能力の標準化等、他の高専とも情報交換しながら取り組まれたらよいのではないかと。【井原議長】

提言 1-2	<p>リベラルアーツ教育、アントレプレナーシップ教育（FPP）、MOT教育において、課題発見、批判的思考、創造的思考などは共通する要素である。しかしながら、体系としては、リベラルアーツ教育を基盤にして、アントレプレナーシップ教育やMOT教育が可能になると考える。これらをカリキュラムツリーの中で互いに上手く整理・連携させ、学生にもそれを理解してもらうことが重要である。</p>
--------	--

#### ◇関連意見等抜粋

- 昔は実践で学んでいた力を、今は体系化して教えることができる。それがこの取り組みの意義だと思う。【井原議長】
- 1年生から4年生までの各学年における到達目標はどのように設定されているのか。【星田委員】
- 教育効果の定量的評価は難しい。【井原議長】

◆「地域貢献活動について」に関する提言事項

<p>提言 2-1</p>	<p>企業だけでなく、地域社会との関わり、例えば災害からの復旧、防災、地下水保全、渋滞対策への取り組みなど、地域の社会問題に対する高専、またはエンジニアならではの方法での“地域貢献”に期待する。</p>
---------------	---

◇関連意見等抜粋

- TSMC 進出による経済効果は大きい一方で、交通渋滞や地下水問題などの課題も顕在化している。こうした課題へのアプローチを学校側からも行い、地域とのつながりを一層深めていただきたい。【前田委員】
- 県の「くまもとサイエンスパーク構想」や半導体産業の振興を含め、産学官金で情報共有を図り、重複する取り組みを整理し、予算を集約することでスタートアップ支援などを強化できるため、情報共有を徹底し、具体的かつ密な活動を推進いただきたい。【宮村委員】
- 色々な企業との PBL 等について、例えば社会への貢献や防災等に関して SNS を使って効果的に発信していただく、あるいは災害時に避難者の管理をするためのアプリの開発等、高専の学生ならではのスキルを利用した社会貢献も考えられるのではないかな。【井原議長】

<p>提言 2-2</p>	<p>地域貢献の取り組みをもっと外部に情報発信することができれば素晴らしい。</p>
---------------	--

◇関連意見等抜粋

- 校内見学で「栗の収穫ロボット」や海藻研究など、地域課題解決につながる研究が進められていることを知ったが、こうした取り組みをもっと情報発信し、企業との新たな連携機会を増やしてもらいたい。【前田委員】
- 現在実施されている優れた取り組みについては、情報発信をより積極的に行っていただきたい。【井原議長】

# 熊本高等専門学校 活動状況概要

熊本高等専門学校  
八代キャンパス  
副校長 田中禎一

## 目次

- 熊本高専のキャンパスと学科
- 入学の状況
- 学生の出身地と進路の状況
- 学寮
- 特徴的な取組
- 学生の活動状況
- 学生支援
- 課題

# 熊本高専のキャンパスと学科

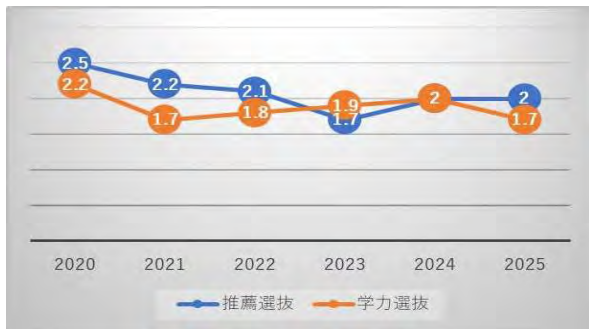


学生定員・現員 (本科：2025年5月1日現在)	5学年定員	5学年現員 (女性)	女性比率 (%)
情報通信エレクトロニクス工学科	200	220 (42)	19.1
制御情報システム工学科	200	212 (35)	16.5
人間情報システム工学科	200	224 (73)	32.6
機械知能システム工学科	200	213 (20)	9.4
建築社会デザイン工学科	200	213 (85)	39.9
生物化学システム工学科	200	212 (111)	52.4
合計	1200	1294 (366)	28.3

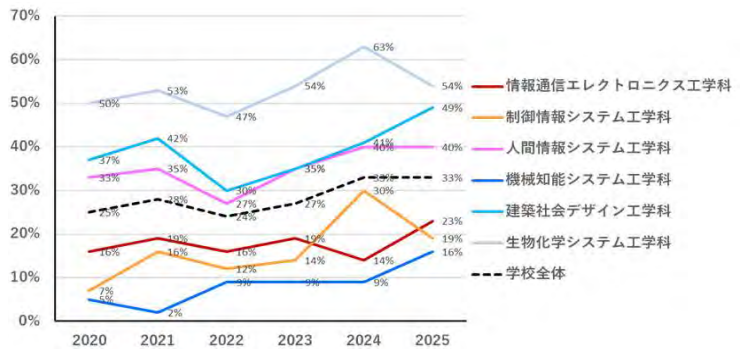
学生定員・現員 (専攻科：2025年5月1日現在)	2学年定員	2学年現員 (女性)	女性比率 (%)
電子情報システム工学専攻	48	57 (5)	8.8
生産システム工学専攻	48	53 (11)	20.7
合計	96	110 (16)	14.6



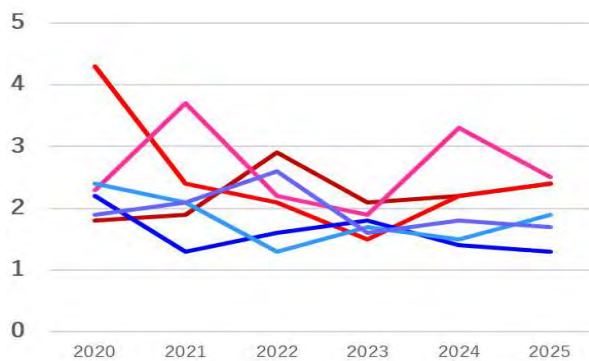
## 入学の状況



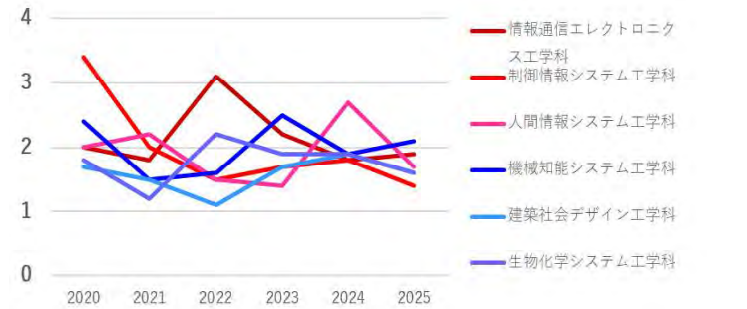
熊本高専全体の志願倍率



入試合格者に占める女性比率



学科別志願倍率 (推薦選抜)



学科別志願倍率 (学力選抜)

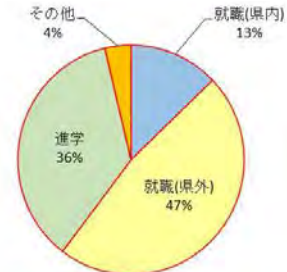
# 学生の出身地と卒業・修了後の進路

## ・本科入学者の出身地

年 度	2020	2021	2022	2023	2024	2025	合計	割合(%)
熊本県(名)	246	243	243	243	238	234	1,447	94
熊本以外の九州(名)	10	10	10	10	16	17	73	5
それ以外(名)	1	5	5	1	3	3	18	1
合 計(名)	257	258	258	254	257	254	1,538	100

## ・本科卒業生の進路

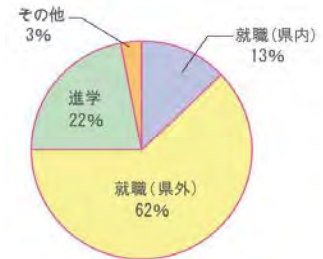
年 度	2020	2021	2022	2023	2024
就職者/卒業生(%)	56	59	53	60	60
求人倍率(倍)	25	24	21	38	43
県内就職者/就職者(%)	12	11	15	22	21



2024年度本科卒業生の進路別割合

## ・専攻科修了生の進路

年 度	2020	2021	2022	2023	2024
就職者/卒業生(%)	73	75	80	78	75
求人倍率(倍)	33	46	38	91	107
県内就職者/就職者(%)	19	19	29	22	18



2024年度専攻科修了生の進路別割合

# 学寮

## 熊本キャンパス

### 明和寮



南棟・北棟



国際棟

	男	女	計
在学数	558	155	713
入寮数	134	41	175
入寮比率(%)	24.0	26.5	<b>24.5</b>

令和5年度：明和寮北棟（女子寮）改修完了

## 八代キャンパス

### 八龍寮・夕葉寮



八龍寮

夕葉寮

	男	女	計
在学数	464	227	691
入寮数	192	85	277
入寮比率(%)	41.4	37.5	<b>40.1</b>

令和5年度：八龍寮A棟（北寮東棟及び食堂）改修完了

令和6年度：八龍寮C棟（南寮東棟）改修完了 R7.3月完了予定

令和7年度：八龍寮B棟（南寮西棟）改修中 R8.3月完了予定

### 寮費(2025年度)

寮費(2025年度)	Dormitory Expenses (2025)
寄宿料(2人部屋) room charge (twin)	月額 per month 700円
寄宿料(個室) room charge (single)	月額 per month 800円
給食費(3食) meal expenses (three meals)	月額 per month 39,600円
寮運営費 maintenance fee	月額 per month 5,000円

# 特徴的な取組

- ① 半導体人材育成教育
- ② 福祉・介護分野のAT(Assistive Technology)開発を通じた教育
- ③ リベラルアーツ教育
- ④アントレプレナーシップ教育
- ⑤ 国際化教育
- ⑥ 九大工学部・九州沖縄九高専連携教育
- ⑦ STEAM教育
- ⑧ 地域連携の活動

## 半導体人材育成教育

COMPASS 5.0半導体（「Society5.0型未来技術人財」育成事業プロジェクト）拠点校として全国高専を主導

### ● ボリュームゾーン人材育成

#### ◆産学連携授業（オンデマンド対応/他高専展開）

- ✓ 専門家教員と企業技術者による最先端の講義
- ✓ 全学科対象の「半導体工学概論」
- ✓ 専攻科対象の「集積回路工学」

#### ◆半導体技術者検定対策講座

- ✓ 半導体技術総合大学校（水俣）での講座
- ✓ 工場見学（ルネサスセミコンダクタマニュファクチュアリング）



#### ◆有明高専との共同講義（サーキットデザイン）

#### ◆全国高専教員対象の半導体製造実習

- ✓ 九工大マイクロ化総合技術センター

半導体工学概論シラバス

科目名	半導体工学概論（選択科目/履修単位/1単位）90分授業		
開講時期	後期	対象学年・学科	4,5年生・全学科、オンデマンド型
1	ガイダンス		高倉
2	半導体の歴史		中島校長(佐世保)
3	半導体の基礎物性:		中島校長(佐世保)
4	半導体製造技術1:前工程		角田
5	半導体製造技術2:後工程		青柳先生(熊大)
6	半導体製造技術3:ウェハー製造		民間企業
7	半導体製造技術4:真空プロセス		民間企業
8	半導体製造技術5:ウェハー加工プロセス		民間企業
9	半導体製造技術6:半導体の実用例I:実装技術		民間企業
10	半導体の実用例II:ディスプレイ		SIHQ
11	半導体の実用例III:ミックスドシグナルデバイス		SIHQ
12	半導体の実用例IV:集積回路		SIHQ
13	半導体の実用例V:光学素子(半導体レーザーなど)		SIHQ
14	半導体の実用例VI:パワー半導体(IGBT以外)		SIHQ
15	半導体の実用例VII:CMOSセンサー		SIHQ

集積回路工学シラバス

科目名	集積回路工学/共同特別講義～専攻科半導体概論～ (選択科目/履修単位/4単位) 90分授業		
開講時期	後期	対象学年・学科	専攻科1年 R5～久留米/有明/九州内大学への 履修試行
1	半導体デバイスの製造概論		角田
2	半導体プロセスの歴史(変遷)/基礎物性		学生補講形式(9回)
3	半導体産業の動向(経済含む)		
4	半導体における環境保全		
5	真空プロセス技術(真空実験)		半導体関連企業(16回)
6	洗浄技術		
7	微細加工技術の変遷と将来		アプラドマテリアルズ、アルバック、カンケンテック、キヤノン、防衛メタル、samco、SUMCO、スクリーン印刷
8	プラズマ技術 (薄膜形成+エッチング+めっき実験)		スクリーンシステムサービス、東京エレクトロニクス
9	ウェーハ加工技術の変遷と将来		ディスコ、テラダイン、日本電子、旭電製作所、レーザテック、ローツェ
10	半導体測定、分析技術の変遷		
11	半導体デバイス検査(テスト)		
12	搬送ロボット技術		
13	半導体工場におけるDX推進 (IoT/社外リモコン)		

# 国際化活動と今後の予定 (2025年度)

## 留学生在籍状況

出身国	3年	4年	5年	計
ブラジル	1			1
マレーシア	1	2	2	5
タイ	1	1	2	4
ラオス			1	1
インドネシア	1	1		2
計	4	4	5	13

## 短期留学生受入

期間	受け入れ先	人数	派遣元国
4/14-8/8	King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	2	タイ
5/14-8/8	Temasek Polytechnic(Engineering)	1	シンガポール
9/29-12/19	Temasek Polytechnic((IIT)	2	シンガポール
9/29-12/26	Temasek Polytechnic(Engineering)	4	シンガポール
10/2-12/23	Nanyang Polytechnic	2	シンガポール
計		11	

## 交流活動による海外学生受入

期間	実施内容	留学生	本校想定人数	派遣元国
8/24-30	高専Global Camp in 熊本	15	一般参加：19名 (第5ブロック高専生会) 運営参加：27名	シンガポール タイ
3/16,17	Temasek Polytechnic(IIT) 交流会(2日間)	30	40	シンガポール
3月上旬 (調整中)	香港IVE, Shatin校 技術交流会(1週間)	30	30	香港
計		75	106	

## 学生派遣

期間	渡航・活動内容	人数	渡航先
9/7-10	海外研修旅行(2年生希望学生)	37	台湾
9/18-24	海外研修旅行(情報通信エレクトロニクス工学科4年)	40	ベトナム
9/14-21	海外研修旅行(制御情報システム工学科4年)	40	シンガポール
9/22-27	海外研修旅行(人間情報システム工学科4年)	38	シンガポール
8/31-9-4	海外研修旅行(機械知能システム工学科3年)	41	タイ
9/24-9/29	海外研修旅行(建築社会デザイン工学科3年)	16	台湾
9/7-9/13	海外研修旅行(生物化学システム工学科3年)	17	タイ
12/16-20	日タイ高校生ICTフェア	4	タイ
3月中旬	英語研修	15	シンガポール
個別渡航			
7-8月	トビタテ！留学JAPAN	3	ベトナム・スウェーデン アメリカ合衆国 オーストラリア
2-3月			
8/11-10/10	協定校交換留学(研究プロジェクト)	1	シンガポール
8/22-8/3	サマースクール(半導体関連)	1	フィリピン
個別	個別留学(語学留学)	8	フィリピン ドイツ、マレーシア・ス ロバキア等
計		251	

## 学内国際活動

実施時期	実施内容	想定人数	対象
7/1	グローバルエンジニア講演会	120	2年生
9/3-9/5	英語集中講座-学内	191	3年生希望者+留学生TA
9月	技術英語I(4年生対象)-研修旅行渡航先実施または学内教員による授業実施	100	4年生履修者
9月	技術英語II(5年生対象)-学内	15	5年生希望者
12月頃	キャンパス合同国際交流会-フィールドワーク	50	留学生+本校希望学生
12月頃	専攻科技術英語集中講義-学内	25	専攻科2年生
3月頃	LEGO シリアスプレイ English	20	1-3年生希望者
計		349	

# STEAM教育の実績

年度	2022	2023	2024
実施回数	85	77	75
受講者数	4,615	6,568	5,431
教員数	263	178	287
教員O数	82	67	12
学生数	498	558	522
外部協力者	61	17	42

実施回数	実施内容	実施日時	実施場所	実施者	受講者数	教員数	教員O数	学生数	外部協力者
1	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
2	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
3	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
4	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
5	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
6	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
7	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
8	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
9	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
10	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
11	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
12	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
13	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
14	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
15	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
16	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
17	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
18	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
19	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
20	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
21	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
22	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
23	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
24	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
25	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
26	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
27	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
28	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
29	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
30	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
31	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
32	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
33	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
34	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
35	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
36	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
37	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
38	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
39	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
40	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
41	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
42	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
43	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
44	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
45	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
46	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
47	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
48	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
49	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
50	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
51	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
52	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
53	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
54	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
55	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
56	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
57	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
58	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
59	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
60	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
61	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
62	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
63	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
64	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
65	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
66	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
67	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
68	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
69	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
70	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
71	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
72	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
73	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
74	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
75	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
76	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
77	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
78	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
79	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
80	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
81	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
82	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
83	「STEAM教育推進委員会」主催「STEAM教育推進委員会」	2022/10/10	本校	STEAM推進委員会	100	10	5	100	10
84									

# 学生の活動状況（高専ロボコン）

高専ロボコン2025九州沖縄地区大会（9月28日、大牟田総合体育館）

熊本Aチーム…優勝 ⇒ **（全国大会：ロボコン大賞）**

八代Aチーム…アイデア賞 ⇒ **（全国大会：特別賞）**（11月16日、国技館）

・競技課題：「Great High Gate」

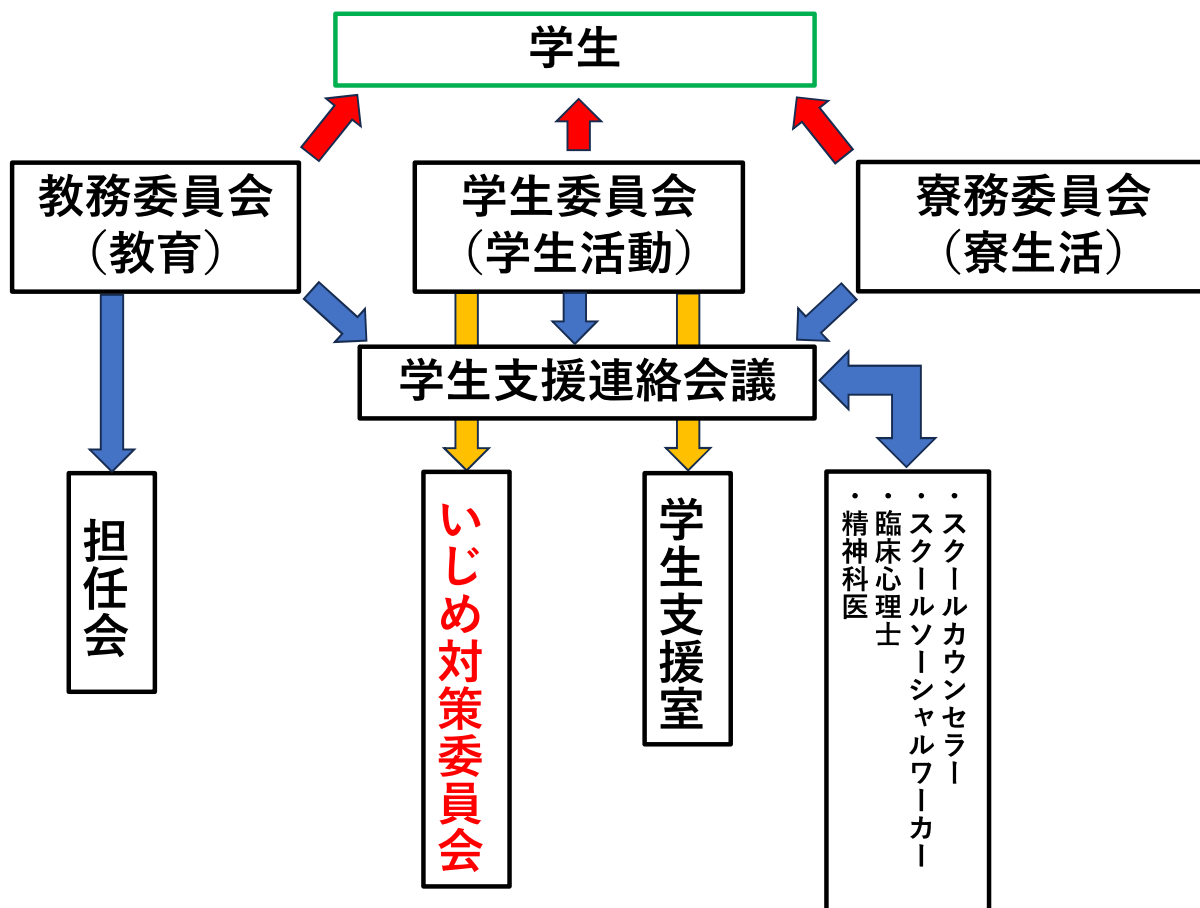
内容：1台のロボットを用いて3分の競技時間でボックスを積み上げてゲートを作り、そのゲートを人が乗った台車と一緒に通過します。ゲートの高さ、通過回数、フィールドに置かれたパイロンの移動数等に点数があり、合計点が高いチームが勝利となります。

優勝（全国大会）	熊本キャンパスAチーム	「強奪名星(ロボスター)」
準優勝	熊本キャンパスBチーム	「榜門(ヒョウモン)」
アイデア賞（全国大会）	八代キャンパスAチーム	「建築は旋門凱 (ケンカハセンガイ)」
準決勝進出（ベスト4）	八代キャンパスBチーム	「熊門(くまもん)」



<https://kumamoto-nct.ac.jp/award/2025/10/20251007a/>

# 学生支援



# いじめ防止対策について

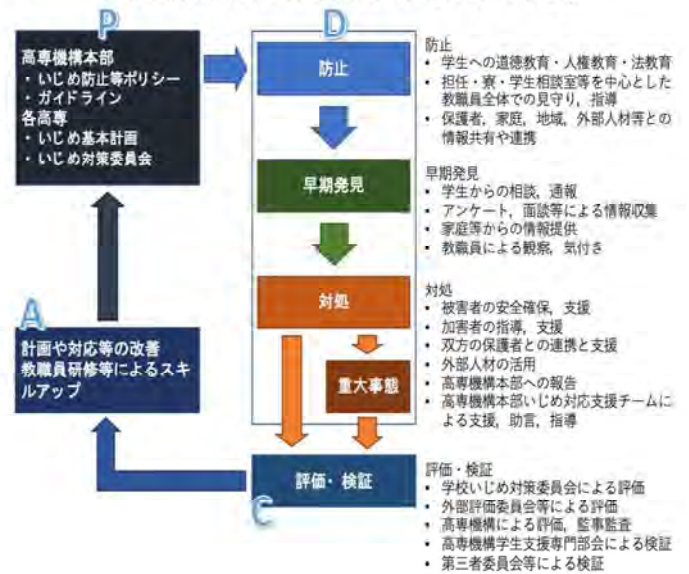
## ● 熊本高専のいじめ防止対策

- ✓ いじめ防止基本計画の制定
- ✓ いじめ防止マニュアルの整備
- ✓ いじめ防止プログラムの実施  
⇒ 公式HPに掲載
- ✓ いじめ防止週間の実施と啓発活動 (年2回)
- ✓ いじめ対策委員会の開催 (年6回)
- ✓ **いじめに関するアンケートの実施** (年4回)



- ◆ **いじめの発生の未然防止**
- ◆ **いじめの芽をできる限り早期に察知**
- ◆ **いじめ事案への速やかな対応**

いじめ防止等の全体の流れ (PDCAサイクル)



# いじめ事案対応について

## ● 状況

- ✓ いじめ事案の認知は、いじめに関するアンケートや学生からの相談に拠ることが多い。
- ✓ SNSでの書き込みや発言が関わる事案が目立つ。

### 【重大案件対応の概要】

- ・内容：寮や学内での嫌がらせ
- ・対応：年度末からの継続案件。寮内の同じフロアの学生に対してアンケートを実施，本人から名前の挙がった学生に対しては面談を行い，いじめ対策委員会を中心として，担任，専門家 (SSW, SC)，保健室，学生主事が連携を取りながら対応。

悪意のある行動ではないようであったが，面談を行った学生には，人によって感じ方やとらえ方が異なることを伝えて指導，訴えてきた学生と保護者には面談内容を報告し，ある程度納得いただいた。現在も見守りを継続中。

### 【その他の事案対応】

アンケート等で事案を認知後，Microsoft Teamsや対面でいじめ対策委員会での対応を検討し，事案の解決や状況の改善が見られるまで継続的に情報を共有しつつ対応。

いじめ事案の認知件数

	令和6年度		令和7年度	
	認知件数	重大案件 (内数)	認知件数	重大案件 (内数)
仲間外れ・無視	4			
SNS上での悪意ある書き込み	3		1	
身体的嫌がらせ (体を押す等)	1			
言葉による暴力、嫌がらせ	4		4	
その他	1	1	1	
計	13	1	6	0

※令和7年度は10月23日現在

# 課題

## 教員組織について

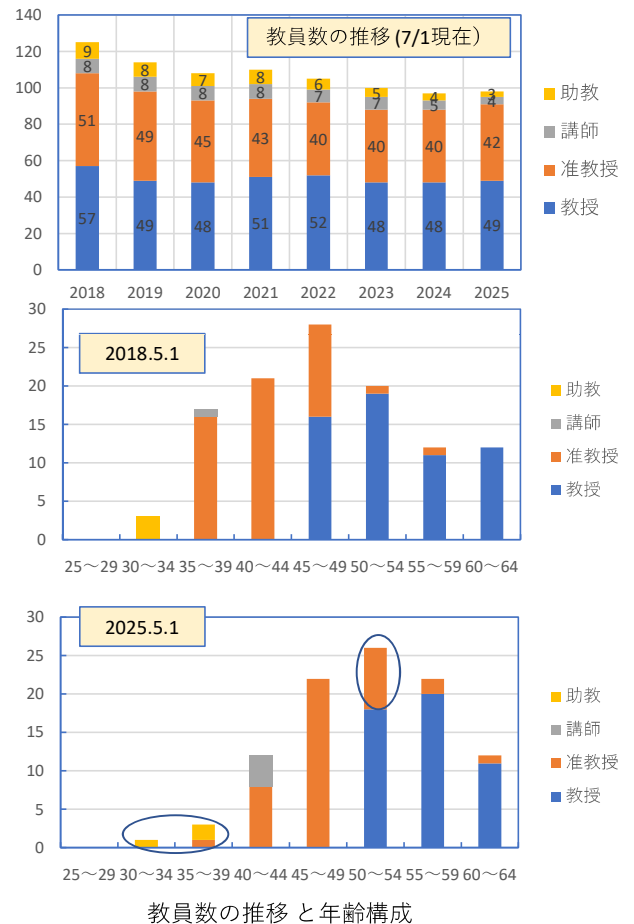
- ✓ 教員枠：93名
- ✓ 統合によるの2学科減で教員枠が削減
- ✓ 2018年から7年間で27名（23%）減少
- ✓ 現員：98名
- ✓ 今後4年間でさらに5名削減の要請
- ✓ 募集停止による高齡化
  - 40歳未満4名 35歳未満1名
- ✓ 昇任人事の遅れ
  - 50歳以上の准教授13名
  - 40歳代の教授不在

## 課題

- ✓ 急激に高まる負担感
- ✓ 世代ギャップ
- ✓ 教員のモチベーション維持

## 対策

- ✓ 今後の定年退職を見越した緩やかな削減計画
- ✓ 基金（高度情報系人材育成）を利用した採用の前倒し





## 【話題提供①】

# 生き抜く力を育てる授業 —リベラルアーツ教育の展開状況—

報告者:熊本高専八代キャンパス 基幹教育部門  
准教授 池田翼(リベラルアーツ教育担当)



【話題提供①】 —生き抜く力を育てる授業—リベラルアーツ教育の展開状況

## 《報告の内容》

### ①リベラルアーツ教育導入の背景

- ・昨今の教育に求められるているもの
- ・「基盤的資質・能力」とは
- ・カリキュラムの設計

### ②教育実践事例

- ・講義／外部講演
- ・PBL(課題解決型授業)／SPS(成果報告会)
- ・アセスメント／ウェルビーイング教育

### ③成果と課題

- ・情報発信／他機関への波及
- ・確認された効果と今後の課題

## 《報告の内容》

### ①リベラルアーツ教育導入の背景

- ・昨今の教育に求められるているもの
- ・「基盤的資質・能力」とは
- ・カリキュラムの設計

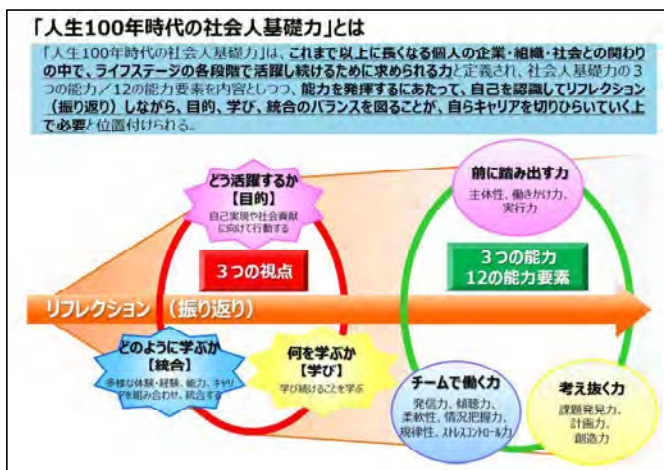
### ②教育実践事例

- ・講義／外部講演
- ・PBL(課題解決型授業)／SPS(成果報告会)
- ・アセスメント／ウェルビーイング教育

### ③成果と課題

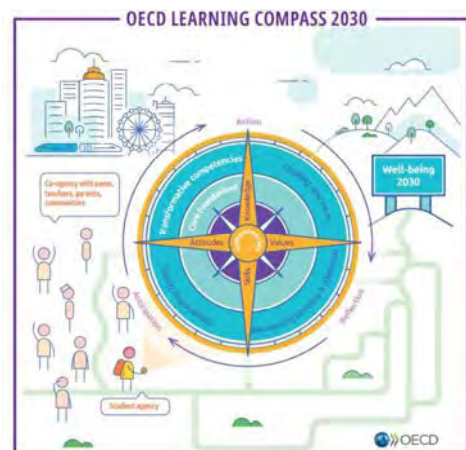
- ・情報発信／他機関への波及
- ・確認された効果と今後の課題

## ①リベラルアーツ教育導入の背景～昨今の教育に求められているもの～



【経済産業省HPより】

<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>



【OECD Learning for 2030 HPより】

<https://www.oecd.org/education/2030-project/>

⇒経済産業省の「社会人基礎力」、文科省の「生きる力」など、各省庁において「知識・スキル」に留まらない汎用的な資質の育成が必要とされてきた。国内に留まらず、OECDの「ラーニングコンパス(学びの羅針盤)」等でも同様の潮流が見られ、流動的な社会を生き抜く力を養成することが求められている。

## ①リベラルアーツ教育導入の背景～昨今の教育に求められているもの～

⇒特定の専門領域における知識やスキルではなく、自ら学修を深めていくうえで、あるいは就業して価値を発揮していく中で、**共通して重要となる様々な資質・能力・態度等(≠学力)**を高専機構では、「**基盤的資質・能力**」および「**創造性・デザイン能力**」と定義。

MCC(モデル)：基盤的資質・能力	MCC(モデル)：創造性・デザイン能力
VII 汎用的技能 VII-A コミュニケーションスキル VII-B チームワークとリーダーシップ VII-C 情報収集・活用・発信力 VII-D 思考力 VII-E 課題発見力・問題解決力	IX 創造性、デザイン能力 IX-A 創造性 IX-B エンジニアリングデザイン能力
VIII 態度・志向性 VIII-A 自己理解 VIII-B 主体性 VIII-C 自己管理と責任ある行動 VIII-D 倫理観 VIII-E キャリアデザイン VIII-F 継続的な学習と学びの目的	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #fff9c4;"> <p style="text-align: center;"><b>【モデルコアカリキュラム】</b></p> <p>高専機構が提示している国立高専のカリキュラムガイドライン。最低限の能力水準・習得内容を示した「コア」と、技術者が備えるべき「汎用的技能」や「態度・指向性(人間力)」を整理した「モデル」から成る。</p> </div>

【国立高専機構「改訂版モデルコアカリキュラム」より】

## ①リベラルアーツ教育導入の背景～昨今の教育に求められているもの～

⇒令和元年度カリキュラムにおいて、基盤的資質・能力等の開発に特化した「リベラルアーツ関連科目」を開講。学内・学外問わず広く協働し、座学や演習・外部講演等を織り交ぜながら**学生の主体的学びを起動し、「生き抜く力」を育成することを目指す。**

### リベラルアーツって？

- リベラル (liberal)  
⇒「自由な」…「自由人にふさわしい」
- アーツ (arts)  
⇒「アート・技芸」…「学問の科目」

噛み砕いていうと…

特定の専門分野に限定されない(あらゆる専門分野で求められ/活かすことができる)、**生き抜くうえで必要となる汎用的なスキルや態度(≠知識)**を習得するための科目。

リベラルアーツ入門―第1回―

### 「主体的学習」とは？

学ぶことを**自分自身で決断し**、  
(人に言われたからではなく)  
**自分で定めた目標**のために、  
(「テストがあるなど外的な理由ではなく」)  
**自分自身で方法を考えて**、  
(提供されるものを受け取るだけではなく)  
**深い学びをもたらす学習。**  
(きつかった・大変だっただけで終わらない)

⇒とてつもない学習効果を発揮する！

リベラルアーツ入門―第1回―

【1年生向け「リベラルアーツ入門」授業資料より】

## ①リベラルアーツ教育導入の背景～カリキュラムの設計～

⇒1年生から4年生までの「リベラルアーツ」必修科目を中心にし、各科目と連携しながら段階的な育成を図る。教育目標等の理念や方針は両キャンパスで共有しつつ、具体的な授業内容は各キャンパスの特性やリソースに応じて独自に構築している。



【リベラルアーツ科目系統図】

## ①リベラルアーツ教育導入の背景～カリキュラムの設計～

⇒令和8年度カリキュラム改定においても、アントレプレナーシップ科目と連携しながら、リベラルアーツ教育の充実を図る予定。

### ■科目名の変更

- ・1年生「リベラルアーツ基礎」1単位／必修
- ・2年生「リベラルアーツ応用」1単位／必修
- ・3年生「リベラルアーツ実践」1単位／必修

### ■科目の廃止

- ・4年生「リベラルアーツ実践Ⅲ」1単位／必修

### ■科目の新設

- ・1年生「アントレプレナーシップ基礎」1単位／必修  
⇒現行カリキュラムに不足している内容を補遺
- ・4年生「アントレプレナーシップ実践」／選択
- ・各学年「アントレプレナーシップチャレンジⅠ」および「同Ⅱ」1単位／プロジェクト科目



## 《報告の内容》

### ①リベラルアーツ教育導入の背景

- ・昨今の教育に求められるているもの
- ・「基盤的資質・能力」とは
- ・カリキュラムの設計



### ②教育実践事例

- ・講義／外部講演
- ・PBL(課題解決型授業)／SPS(成果報告会)
- ・アセスメント／ウェルビーイング教育

### ③成果と課題

- ・情報発信／他機関への波及
- ・確認された効果と今後の課題

## ②教育実践事例～講義／外部講演～

### ■「思考スキル」(1年生)

様々なフレームワークを用いながら、分析的に思考する手法を身に付ける。自分の目標達成や抱えている課題の達成に向けて、思考を整理し、行動をデザインする経験をする。他にも、通常科目とは一味違う講義を展開。



【講義の一例】  
赤いスクリーンを一心に見つめる学生達

### ■「脱炭素講演会」(1～3年生)

社会課題の解決に欠かせない「脱炭素」についての現状を知る。国(環境省)・県(熊本県)・市(八代市)から講師を招聘し、学年ごとにそれぞれ受講。立場の違う三者が「脱炭素」をどのように捉え、対策を講じているのかを学ぶことで、視野を広げ、理解を深める。



【熊本県環境立県推進課による講演の様子】  
ディスカッションや質疑も活発に行われる

## ②教育実践事例～PBL（課題解決型授業）／SPS（成果報告会）～

### 問題発見・課題解決型（PBL）学習 ～解のない課題に挑む～

#### ■「私たちのソリューション」（2年生）

課題を設定して解決案を提案する。  
学科混成のグループ活動によって、多様性理解やリーダーシップ・メンバーシップも育成。



【チームビルディング】  
仲間の呼びかけを頼りに  
くまモンを完成させる  
「目隠し福笑い」に挑む

#### ■「ソリューションの実現」（3年生）

解決案の〈実装〉を目指した活動を行う。  
民間・行政含めて外部との連携も図りつつ、  
「教室外での学び」を推進。

【活動の一例】  
地域の子ども向けに  
「農業の大切さを伝える」  
イベントを開催



#### ■「エンジニアリングデザイン」（4年生）

デザインシンキングを中心にし、実際のユーザーを交えたPBLを実施。課題研究・卒業研究との接続をはかる。



【活動の一例】  
実装に向けて「ファブリケーションラボ」で  
試作品を製作

## ②教育実践事例～PBL（課題解決型授業）／SPS（成果報告会）～

### 最終成果発表会 ～KNIT Student Project Showcase 2024～

プロジェクトの総まとめとして、**学年合同での最終成果発表会**を実施。企業・行政・地域の方々を含め、**2024年度は学内外から550人程度の参加者**が集まり、**80を超えるテーマ**について報告が行われた。登壇者は八代キャンパスの2～4年生を中心に、その他の学年／熊本キャンパス学生／佐世保高専学生などで、テーマは学生の関心に応じて多岐に渡る。多くのグループが**アワード**を受け取り、今後の活動に向けてのモチベーション向上を図った。企画や運営も**上級生**を中心に行う、**学生主体のイベント**として定着している。



※公式HPに実施報告記事を掲載中 (<https://kumamoto-nct.ac.jp/update/2025/03/20250310b/>)

## ②教育実践事例～PBL(課題解決型授業)／SPS(成果報告会)～

### ～KNIT Student Project Showcase 2024～での発表事例



3Dモデルの作成  
「新たなCPUクーラー開発への取り組み」  
(1年生有志による報告)



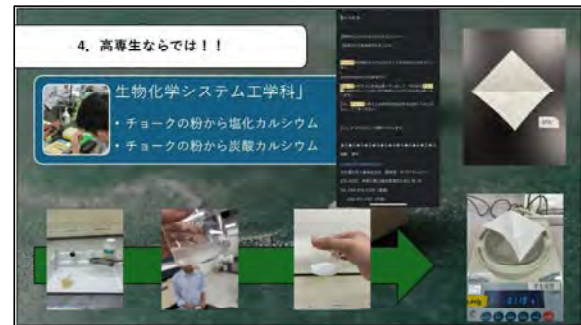
#### 1年間の活動内容

- ◆ いぐさ刈取り体験
- ◆ 世界一長い畳の製作体験
- ◆ いぐさリース・いぐさしめ縄の製作
- ◆ クリスマスマーケットinくまモンポート

「いぐさでいぐさ!!」  
(八代C4年生・最優秀賞受賞テーマ)



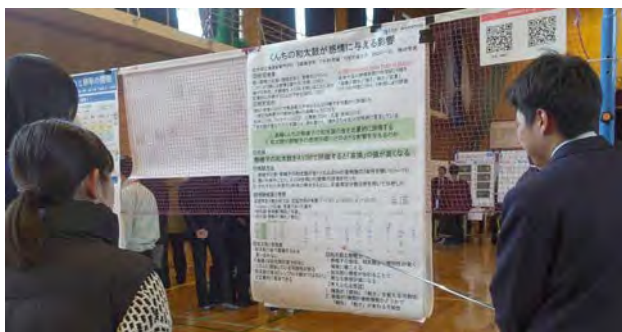
「高齢者向け音声アシスタント付き情報アプリ『Voice Ease』」  
(熊本Cからのオンライン登壇)



「超coolなチョーク」(八代C3年生)

## ②教育実践事例～PBL(課題解決型授業)／SPS(成果報告会)～

### ～KNIT Student Project Showcase 2024～での発表事例



「くんちの和太鼓が感情に与える影響」  
(佐世保高専学生によるポスター発表)



「どうしたらAIを活用したよりよい教育を目指せるか」  
(八代C4年生)



「空き家をあきやめねえ」(八代C3年生)



「八代koikoiマップ」  
(八代C2年生・やつしろ高校生・高専生 未来会議発表テーマ)

## ②教育実践事例～アセスメント／ウェルビーイング教育～

### ★PROGテスト

自らの強みや特性を知り、「なりたい自分」を目指すための、リテラシー・コンピテンシーを測定するPROGテストを受験。1年次・4年次にそれぞれ測定し、結果をもとに行動計画を立てる。



【PROGテスト結果の例】



【行動計画策定の様子】

### ★セルフチェック

各学年では、それまでの活動を振り返りながらスキル開発状況を自己診断する。学年ごとの到達度がレーダーチャートで表示されるため、自分の成長が一目でわかる。



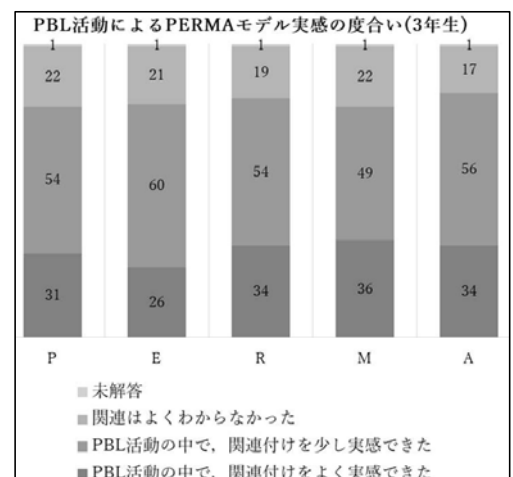
【スキルチャートの例】

## ②教育実践事例～アセスメント／ウェルビーイング教育～

⇒1年生では「ウェルビーイング」の向上を意識づけ、2年次以降ではPBL活動を通じて経験的に学習する。PBL活動は、ウェルビーイングがどのようにもたらされるのか、体験しながら理解する機会に満ちている。アンケートからは、ウェルビーイングへの理解が深まったことがわかる。

ウェルビーイングの要素	PBL活動における具体的な場面
<b>Positive Emotion:</b> 楽しさや喜びなどの肯定的感情	活動の中で嬉しい・楽しいという肯定的な感情を持つことができた
<b>Engagement:</b> 夢中になって何かに取り組んでいる状態	活動に取り組む中で没頭できる作業があった
<b>Relationships:</b> 他の人との良好で安定した関係	メンバーとうまく協力できた／学内外のステークホルダーと良好なコミュニケーションが取れた
<b>Meaning &amp; Purpose:</b> 自分の行動や存在の意義や目的	提案した解決策が人の役に立った・誰かに感謝された
<b>Achievement:</b> 何かを成し遂げたという達成感	報告会でのプレゼンがうまくいった／各種アワードの対象に選ばれた

【PERMAモデルとPBL活動との関連】



【「PBL活動でウェルビーイングの構成要素を実感できたか？」アンケートの結果】

## 《報告の内容》

### ①リベラルアーツ教育導入の背景

- ・昨今の教育に求められるているもの
- ・「基盤的資質・能力」とは
- ・カリキュラムの設計

### ②教育実践事例

- ・講義／外部講演
- ・PBL(課題解決型授業)／SPS(成果報告会)
- ・アセスメント／ウェルビーイング教育



### ③成果と課題

- ・情報発信／他機関への波及
- ・確認された効果と今後の課題

### ③成果と課題～情報発信／他機関への波及～

⇒教育実践として、学会発表や論文投稿を通じて情報発信を行っている。特定の教員だけでなく、多くの教員が関わり、発表のフィールドも多彩。

#### 【論文等】

- ・「リベラルアーツ教育におけるPBL活動とWell-being－課題解決型学習の経験がもたらすPERMAモデルの実感について－」池田翼, 川尾勇達 (2024年度 工学教育研究講演会講演論文集 178-179 2024年9)
- ・「リベラルアーツ教育手法を用いた防災教育と環境教育」上久保祐志, 木原久美子, 脇中康太, 山下徹, 池田翼, 川尾勇達 (西部地区自然災害資料センターニュース (70) 41-44 2024年9月)
- ・「熊本高等専門学校におけるリベラルアーツ教育の実践」池田翼, 小林幸人, 松尾かな子, 川尾勇達, 石田明男 (工学教育 68(4) 4\_74-4\_79 2020年8月)

#### 【口頭発表・講演等】

- ・「地域脱炭素に向けたリベラルアーツ教育の展開」上久保祐志, 木原久美子, 脇中康太, 山下徹, 池田翼, 川尾勇達 (第35回日本沿岸域学会 2024年7月20日)
- ・「熊本高専八代キャンパスのリベラルアーツ教育におけるデザインシンキングを適用した地域脱炭素への取り組み」木原久美子, 池田翼, 川尾勇達, 脇中康太, 上久保祐志 (第32回九州沖縄地区高専フォーラム 2023年12月2日)
- ・「リベラルアーツ教育を通じた実践事例」池田翼 (創立100周年記念 第74回日本生物工学会大会 2022年10月20日)
- ・「リベラルアーツ科目群を軸としたPBL教育実践事例」池田翼, 川尾勇達 (令和3年度 KOSENフォーラム OS-43 高専が牽引するイノベーション人財教育：コンピテンシー教育コミュニティの形成 2021年12月13日)

### ③成果と課題～情報発信／他機関への波及～

⇒内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局が取りまとめている「第3回 総合知活用事例」に採択されるなど、教育実践事例として他の教育機関のモデルとなりつつある。

① 総合知活用事例の活用事例 ② 総合知人材の育成を行う事例 ③ 総合知活用事例の活用事例の活用事例

#### 熊本高専リベラルアーツ教育における総合知を活用した学生の“人間力”育成の試み

熊本高等専門学校 基幹教育部門(池田 翼)

熊本高等専門学校にて実施しているリベラルアーツ教育においては、学生の「人間力」を育成するため、地域社会と連携したPBL(Project-based Learning:課題解決型学習)を実施している。特に八代キャンパスでは機械系・建築土木系・生物化学系の学生が学科混成チームを結成し、「SDGs」や「脱炭素」をキーワードに社会課題の解決に挑むPBL活動を展開しており、専門性の枠を超えた新たな価値の提案を目指している。学内外のステークホルダーと協働しながらプロジェクトを進め、報告会にて成果を発表する一連の経験を通して「人間力」の育成を図るとともに、PERMAモデル<sup>※</sup>に基づくWell-being向上への意識付けを行う。

**総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題**

PBL活動により、学生の「人間力」(基礎的資質・能力 / 創造性・デザイン能力)を成長させ、Well-being向上を意識付けける。地域とのつながりを重視し、ユーザー目線でエンジニアリングに取り組み社会課題解決に貢献する人材の育成・輩出を目指す。

**「規」を超えた場づくり/参画しているステークホルダー**

八代キャンパスの3学科を中心とした熊本高専教員、キャリア支援・地域連携・技術センター等の学内セクションおよび専攻科や上級生の学生メンター、行政組織、民間企業、市民団体など、学生のプロジェクトに応じた多種多様な組織が協力している。

**総合知人材の育成方法/育成方法の工夫**

PBL実施時には異分野合同にてチーム編成を行い、課題の設定や解決策の提案が特定の専門領域に偏らないよう留意している。さらに他機関との連携強化のため、教育事業に関わる教員の幅を広げるとともに、学生自身が協力企業等を開拓し人脈形成ができるよう、教室外での実践的な学びを積極的に推奨している。

「人間力」の育成  
Well-beingの向上

アウタカムの評価/測定

プロジェクト成果の発表/表彰

地域社会との連携

専門性を越えた協働

規範/慣習によるインプット

**【総合知】**

“多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むこと”と定義され、これからの社会を築くために欠かせないものであるとして、様々な場面で人材育成や活用の推進が図られている。

※PERMAモデル(マインド・セリグマン)博士が開発した、Well-beingを構成する5つの要素を指す概念。これらの要素は、ポジティブ感情(P)、エンゲージメント(E)、良好な人間関係(R)、人生の意味(M)、達成感(A)の頭文字を組み合わせて表付けられている。

(内閣府HP「第3回総合知活用事例」[https://www8.cao.go.jp/cstp/sogochi/jirei\\_3kai.html](https://www8.cao.go.jp/cstp/sogochi/jirei_3kai.html))



### ③成果と課題～確認された効果と今後の課題～

#### 2024年度授業アンケート「自由記述まとめ」での学生の声

(1年生)これまでに経験したことのない主体的な学びをテーマにした授業は革新的で面白かったです。／リベラルアーツではいつもは学ばないようなことでも学ぶことが出来るため、違う考え方で考えるということが多々あったため楽しかったです。

(2年生)グループでの活動を通してコミュニケーション能力がついた。／自分たちで活動しないといけないので大変だったが達成感があった。

(3年生)アイデアを形にすることの大変さ、楽しさが分かった。他のグループの取り組みを見るとまだまだ伸び代があるなと感じた。／去年より自主的に活動する人が増えて良かったです。他学科の人との交流があり、多様な意見を聞くことが出来て楽しかったです。

(4年生)話し合いや立案などを積極的に行い、自身の役割を理解し、自主的に行動し、いい活動ができた。／実際にグループでプロトタイプを作り使用してもらった。改善点を出しこれからの活動に励みたい。

(1年生)授業に専門用語が多く、理解するのが難しかったです

(2年生)班員とまだ仲良くできず、あまり活動が進みませんでした

(3年生)同じ班で動いている人と全く動かない人の差が凄かった

(4年生)やりたい人だけやらせてほしい



### ③成果と課題～確認された効果と今後の課題～

#### リベラルアーツ教育の効果

- ✓ 科目を新設したことで、**基盤的資質・能力等の「生き抜く力」**育成に特化したプログラムを構築できた。
- ✓ **学びのフィールドを学外に広げることができ、学生に様々な経験の機会**を提供できるようになった。課外活動等ではなく、**正課内で構築できている点は強みである。**【追記:LA実践で学んだグループや学生が、高校生・高専生未来会議、ゼロカーボンやつしろ推進協議会(学生幹事会への参加、学生幹事会へのアドバイザーとしての協力)、マルシェ出店等、積極的に地域に貢献している】
- ✓ 授業アンケート等の結果でも**おおむね満足度が高く、自由記述欄においても前向きな内容が多い。**科目の意図やねらいはある程度伝わっている。特に、「**成長できた**」というコメントがなされるのは大きな成果。

### ③成果と課題～確認された効果と今後の課題～

#### リベラルアーツ教育の課題

- ✓ 自由記述に見られるように、学習効果に学生ごとの差がある。**活性化しないままに終わってしまうグループや学生も散見される。**活動を活性化させる方策が必要。
- ✓ 関連する業務が多岐に渡ってきており、**マンパワー不足**に陥っている。学生や外部の力も借りながら事業を継続・発展できる仕組みを構築する必要がある。
- ✓ 学習効果については、定量的な評価が難しく、定性的な評価にとどまっている。**客観的に効果を検証する方法**を模索中。



# 地域貢献活動について

熊本高等専門学校 運営諮問会議  
令和7年11月20日（木）八代キャンパス

総務主事／社会連携・研究支援室長  
田中 裕一

## 特色ある地域貢献活動等

- ① 本校学生向け連携教育
- ② 学外向け地域貢献活動
- ③ その他の連携活動
- ④ 財政面の活動

## ① 本校学生向け連携教育

### 本校学生向け連携教育

#### ● 地域連携による課題解決型教育

##### ◆新・閃きイノベーション（2017～）

- ✓ 熊本県工業連合会との連携
- ✓ 企業で実際に問題になっている現実の課題を解決
- ✓ プロトタイプ of 作製やシミュレーション

##### ◆リベラルアーツ実践（正課）

- ✓ テーマの一部は企業や地方自治体から提供

#### ● 長期インターンシップ

##### ◆東京エレクトロン九州・熊本高専連携研究型人材育成プログラム

- ✓ 10か月間（5月～3月）の研究型長期インターンシップ

##### ◆肥後銀行長期インターンシップ

- ✓ 長期休暇期間中のインターンシップ

## ◆熊本県工業連合会との連携で、企業で実際に問題になっている現実の課題を提示していただき、学生グループが解決方法を考えプロトタイプの作製やシミュレーションを行うPBL

2024年度の発表会も両キャンパスとオンライン参加者を繋いだハイブリッド形式で開催（4/18）

### ■ 発表課題名等一覧

課題名	出題企業
業務効率化のためのWebアプリケーションの開発	株式会社MICHIRU
在庫管理システムの補助を行うWebアプリ	株式会社 地の塩社
児童スペースで使いやすい家具	金剛 株式会社、くまもと森都心プラザ図書館
プロペラ工場間台車物流キズ対策	ヤマハ熊本プロダクツ株式会社
馬の増体予測システムの開発	株式会社 千興ファーム
卵詰め作業の自動化	有限会社 益田養鶏場
工場内の結露監視	株式会社 マイスティア
学習教材（英語学習アプリ）	熊本県立黒石原支援学校



熊本キャンパス(1)



熊本キャンパス(2)



八代キャンパス(1)



八代キャンパス(2)

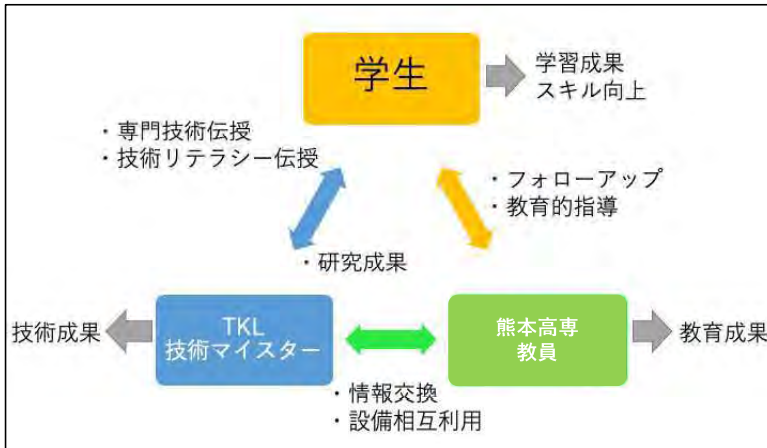
### ■ 取り組み課題名等一覧

今回発表した8グループの他にも、下記の通り、企業からの課題解決に取り組みました。

課題名	出題企業
システム設計におけるテストとエビデンスの一元化記録ツールの開発	株式会社 RKKCS
顧客の健康状態を改善予測	株式会社くまもと健康支援研究所
工場内に案内システムを設置し、労働環境の改善	金剛 株式会社
画像処理を用いたアナログメータの読み取り	新電元熊本テクノロジーサーチ 株式会社
鵜の鳥害対策	株式会社マイスティア
学習教材（イルミネーション）	熊本県立黒石原支援学校
次世代水産業協同R&D	株式会社マイスティア
RSSIを利用した物体の位置確認方法の検討	新電元熊本テクノロジーサーチ株式会社
棚板のたわみ（間口方向・奥行き方向）	金剛 株式会社
棚受（フラット仕様）の耐荷重	金剛 株式会社
統・立ち読みのための家具	金剛 株式会社・くまもと森都心プラザ図書館
支柱の袖孔数による板厚変更	金剛 株式会社
棚板形状による強度の差	金剛 株式会社
在席確認	株式会社 熊防メタル
コレットチャック破損対策	ヤマハ熊本プロダクツ株式会社
海外製装置のモータ置き換え、軸、軸受の設計等	興人フィルム&ケミカルズ株式会社

- ◆ 東京エレクトロン九州（TKL）との連携教育（2019～）
- ◆ 毎年20名程度，金曜日の午後+長期休暇期間中に実施，年2回成果発表会
- ◆ TKLエンジニアと高専教員が共同で指導する長期インターンシップ

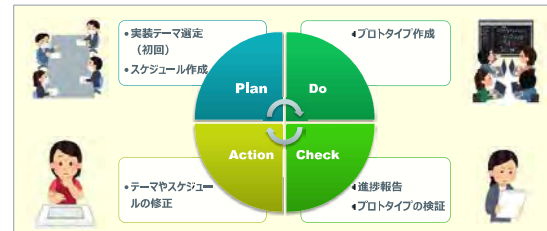
- ✓ 最先端で活躍するエンジニアが取り組みにくい課題について，マイスターの指導のもと学生が評価試験やモデル化設計を行って将来の製品開発などにつなげる
- ✓ 実施責任教員は，学校内での作業に必要な機材の準備・環境の整備を行い，研究のための調査分析を実施してTKLの担当者と協力



第13回学生成果発表会  
(2025年度前期)  
2025年10月3日

## 肥後銀行長期インターンシップ

- ◆ 2022年から長期休暇期間中に実施（専攻科1年生）
- ◆ 実際の業務利用を目標に，本高専OBのエンジニアの指導のもと生成AIを活用したアプリのプロトタイプ開発を実施
- ✓ 「学生自身の知識・スキル」を如何にビジネスに変換するかを経験
- ✓ 2022年：12名 2023年：8名 2024年：8名 2025年：9名



最終成果報告会

日程	内容
8/16 (金)	銀行業務について(決算書分析、融資業務等)
8/20 (火)	銀行業務について(システム企画、SDGs)
8/23 (金)	開発に向けたスケジュール作成
8/27 (火)	プロトタイプ作成① (前半：進捗報告)
8/30 (金)	プロトタイプ作成② (前半：進捗報告)
9/3 (火)	プロトタイプ作成③ (前半：進捗報告)
9/6 (金)	プロトタイプ作成④ (後半：中間報告会)
9/10 (火)	プロトタイプ作成⑤ 成果発表準備
9/13 (金)	プロトタイプ作成⑥ (後半：プレ成果発表会)
9/17 (火)	最終成果発表・講評

## ② 学外向け地域貢献活動

### 小中高生対象の啓発活動（半導体関係）

#### ● 自治体や地域と連携した出前授業

- ✓ 高校生対象の検定対策講座（熊本県との連携）
- ✓ 小中学生向け「しごと学びWEBライブ」（熊本市との連携）
- ✓ 中学校での出前授業と実験キット開発（ながさき半導体ネットワーク 長崎県や地元企業との連携）



高校生向け検定対策講座



小中学生向け半導体授業



中学校での出前授業



## 令和6年度

◆実施回数：75回

◆受講者数：5,431名

◆従事者数

- ✓ 教職員 287名, 教員OB 12名
- ✓ 学生 522名, 外部 42名



熊本高専ハカセ塾  
「成果発表会」  
(2024/12/14)



八代市立坂本中学校  
「半導体について」  
(2024/12/17)

## 令和7年度 (10/21時点)

◆実施回数：42回

◆受講者数：2,860名

◆従事者数

- ✓ 教職員 75名, 教員OB 8名
- ✓ 学生 353名, 外部 27名



第28回八代子ども科学フェア  
「ミニミニ科学館」等  
(2025/1/12)



わいわい工作わくわく実験  
ひろば in アミュ  
(2025/3/8)



熊本菊南ロータリークラブ  
「ロケット教室」  
(2025/6/25)



出前授業(招待授業)  
@熊本キャンパス  
(2025/7/6)



八代市立龍峯小学校  
出前授業  
(2025/7/6)



青少年のための科学の祭典  
熊本大会2025  
(2025/8/23-24)

# 2025年度 STEAM教育関連活動一覧

2025年度 STEAM  
教育関連活動リスト

日時	曜日	キャンパス	活動名	対象・参加者	参加者数	場所	場所(市町村)	教員	教員OB	学生	外部	予算種	
1	5月10日	土	ハ代C	WASAMONフェス2025	しらぬい保育園		ハ代校十字ホール	八代市	1	0	5	0	STEAM教育支援チーム(ハ代)
2	5月17日	土	ハ代C	おもしろサイエンスわくわく実験講座2025	小中学生・160名	45	ハ代キャンパス	八代市	26	0	136	11	STEAM教育支援チーム(ハ代)
3	5月25日	日	ハ代C	宴楽祭	小中学生・約1000名(会場全体)	1000	八代市支所	八代市	1	0	9	0	STEAM教育支援チーム(ハ代)
4	6月28日	土	ハ代C	熊本高専ハカセ塾ハ代キャンパスオンライン自由研究相談会	小学6年生1名	1	オンライン	八代市	3	1	0	4	助成金:双葉記念財団
5	6月29日	日	ハ代C	出前授業(羅盤小PTA)	4年生16名・兄弟姉妹3名・保護者16名・教諭1名	36	羅盤小	八代市	1	0	10	0	PTAが物品負担
6	7月6日	日	ハ代C	出前授業(羅盤小PTA)	1年生11名	11	羅盤小	八代市	1	1	0	0	PTAが物品負担
7	7月6日	日	ハ代C	第1回わいわい工作わくわく実験ひろば	小1~中2:21名・保護者12名	33	本校ハ代キャンパス	八代市	1	0	9	0	助成金:東京応化財団
8	7月19日	土	ハ代C	熊本高専ハカセ塾ハ代キャンパスオンライン自由研究相談会	小学6年生2名	2	オンライン	八代市	2	1	0	3	助成金:双葉記念財団
9	7月19日	土	ハ代C	熊本高専ハカセ塾ハ代キャンパス第二段階指導	中学2年生1名	1	本校ハ代キャンパス	八代市	1	1	0	0	助成金:双葉記念財団
10	8月6日	水	ハ代C	小学校理科部会研修会			太田郷小学校	八代市	1	0	0	0	先方負担
11	8月21日	木	ハ代C	有明高専へのつづり体験教室	友成会(会場全体):約1000名	1000	有明高専	大牟田市	1	0	4	0	助成金:中谷財団 一部:STEAM教育支援チーム
12	8月23日	土	ハ代C	熊本高専ハカセ塾ハ代キャンパスオンライン自由研究相談会	小学6年生2名	2	オンライン	八代市	2	1	0	2	助成金:双葉記念財団
13	8月28日	水	ハ代C	出前授業(花園小児童クラブ)	1-5年生69名	69	花園小	熊本市	2	0	0	0	助成金:双葉記念財団(ハ代) レンタカー代は地域連携委員会
14	8月30日	土	ハ代C	熊本高専ハカセ塾ハ代キャンパス会場課題研究及び実験講座	小学6年生3名, 中学2年生1名, 中学3年生1名	5	本校ハ代キャンパス	八代市	3	2	1	0	助成金:双葉記念財団
15	9月7日	日	ハ代C	出前授業(人吉東小PTA)			人吉東	人吉市					
16	9月13日	土	ハ代C	熊本高専ハカセ塾ハ代キャンパス会場課題研究及び実験講座			本校ハ代キャンパス	八代市					
17	9月26日	金	ハ代C	環境理科授業(二見中)	小学6年生16名		二見中	八代市	1	0	0	0	STEAM教育支援チーム(ハ代)
18	9月27日	土	ハ代C	熊本高専ハカセ塾ハ代キャンパス会場課題研究及び実験講座			本校ハ代キャンパス	八代市					
19	10月4日	土	ハ代C	熊本高専ハカセ塾ハ代キャンパス会場課題研究及び実験講座			本校ハ代キャンパス	八代市					
20	10月18日	土	ハ代C	熊本高専ハカセ塾ハ代キャンパス会場課題研究及び実験講座			本校ハ代キャンパス	八代市					
21	10月29日	水	ハ代C	くまがわ教室	小中学生6~7名		八代市千丁支所	八代市		1			
22	11月1日	土	ハ代C	熊本高専ハカセ塾ハ代キャンパス会場課題研究及び実験講座			本校ハ代キャンパス	八代市					
23	11月9日	日	ハ代C	出前授業(代場小PTA)	3年生78名		本校ハ代キャンパス	八代市					
24	11月15日	土	ハ代C	熊本高専ハカセ塾ハ代キャンパス会場課題研究及び実験講座			本校ハ代キャンパス	八代市					
25	11月29日	土	ハ代C	熊本高専ハカセ塾ハ代キャンパス会場課題研究及び実験講座			本校ハ代キャンパス	八代市					
26	12月6日	土	ハ代C	熊本高専ハカセ塾ハ代キャンパス会場課題研究及び実験講座			本校ハ代キャンパス	八代市					
27	12月7日	日	ハ代C	サイテック2025			多良木町町民体育館	多良木町					
28	12月8日	月	ハ代C	環境理科授業(六中)	2年生2クラス(26×2)	52	八代市立第六中	八代市					
29	12月11日	木	ハ代C	環境理科授業(鹿北中)	1年生2クラス(32,33)	65	八代市立鹿北	八代市					
30	12月13日	土	ハ代C	熊本高専ハカセ塾ハ代キャンパス会場課題研究及び実験講座			本校ハ代キャンパス	八代市					
31	12月13日	土	ハ代C	学びフェスタハ代			本校ハ代キャンパス	八代市					
32	12月21日	日	ハ代C	熊本高専ハカセ塾ハ代キャンパス会場課題研究及び実験講座			本校ハ代キャンパス	八代市					
33	6月29日	日	熊本C	モザイクロケット教室	合志市小学4年生・31名	31	熊本キャンパス	合志市	2	0	7	7	熊本南ロータリークラブ
34	7月6日	日	熊本C	LED点灯回路・トイドローンプログラミング	御代志子ども会・小学生21人	21	熊本キャンパス	合志市	2	0	19	0	LED回路の材料費は子供会負担
35	8月9日	土	熊本C	embotプログラミング講座	菊池市中央公民館・小学4年生~6年生 午前8名、午後3名	11	菊池市中央公民館	菊池市	1	0	5	0	
36	8月10日	日	熊本C	スーパーボール・スライム作り	花園台子供会・小学生52名	52	花園台公民館	宇止市	2	0	12	0	
37	8月23日	土	熊本C	科学の祭典	小学3, 中學生, 一般		グラウンメッセ(23,24の2日間)	益城町	5	0	38	0	東京エレクトロ
38	8月24日	日	熊本C	科学の祭典	小学3, 中學生, 一般		グラウンメッセ(23,24の2日間)	益城町	5	0	38	0	東京エレクトロ
39	9月6日	土	熊本C	球状ロボットプログラミング	小学4~6年生8名×2回	16	熊本公民館	菊池市	1	0	6	0	
40	9月13日	土	熊本C	空飛ぶなど体育館で実験可能なもの	地域の1~6年生の小學生(未就学児の場合は保護者同伴)~100名程		旭志新明保育園	菊池市	1	0	14	0	
41	9月20日	土	熊本C	キッズおしごとチャレンジinオンライン	小学1年生~6年生		オンライン	益城町	2	0	15	0	
42	10月11日	土	熊本C	電子ピアノ製作	小学1年生~6年生		熊本キャンパス	合志市	5	0	25	0	部員代PTAと参加費負担

- 熊本日日新聞社主催の小学生向けプログラミング教室に協力しました。(8/10)
- 熊本県教諭を対象としたプログラミング教育研修を実施しました。(6/9-9/1)

- ✓ 両キャンパスで、県の小・中・高・特別支援学校の先生を対象とするプログラミング教育研修を全10日間実施
- ✓ 熊本県との協定及び熊本県教育委員会との覚書に基づき、昨年度に引き続き、今回は**3回目**
- ✓ 研修には**100数名**の先生が参加



- 本校学生チームが、鹿児島県の下甕島でプログラミング教室を開催しました。(9/9)



13

- 八代キャンパスにて、「Scratch プログラミング入門講座」を実施しました。(6/29)



- 公開講座「ミニ四駆をラジコン化しよう！」を実施しました。(7/28-29)



- 公開講座「Scratchプログラミング講座」を実施しました。(8/23)

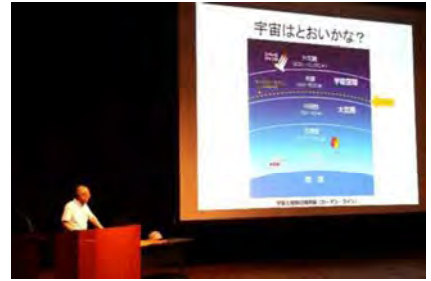


14

# 「未来をひらく火薬の科学 ～やつしろの花火から宇宙探査まで～」

令和7年9月6日(土) 桜十字ホールやつしろ

約**200名**の地域の子供達や市民に参加頂きました。



15

## ③ その他の連携活動

## スマート防災およびオーバーツーリズムの解決策に 共に取り組むアイデアソン 8/24-30

国際的視野をもったグローバルエンジニアの育成を目指し、参加学生は多国籍チームでのグループ議論を通じて身近にある課題に個々の強みを活かして取り組むことにより、分野横断的な視野を拡大させることを目的とする。また、学外研修や交流活動を通じて日本の現状に触れ、参加者と意見を交わすことによって異文化への理解を深め、英語コミュニケーション力の向上を目指す

参加学生 (34名)	高専生 (19名)	熊本:9名, 久留米:7名, 有明:1名, 大分:1名, 鹿児島:1名, 沖縄:1名
	海外学生 (15名)	Temasek Polytechnic:8名(Singapore) PCSHS, Loei:7名(Thailand)
運営学生 (27名)	熊本高専	日本人学生:21名, 留学生:6名
総数(61名)	日本人学生:40名, 外国人学生:21名	

### 育成したい力

- 分野横断的能力(ジェネリックスキル)
  - 自身の強みを活かす力
  - 他者の強みを活かす力
  - 気づき, 考え抜く力
  - チームワーク力  
(リーダーシップ, 協調性)
- 積極的行動力
  - 前に踏み出す力
- 異文化理解力・活用力
  - 自国の文化や歴史背景を理解して行動に活かす力
- 外国語によるコミュニケーション力
  - 英語コミュニケーション力
  - 参加者の母国語を知る

### 主な活動内容

- Ideathonテーマ (A)オーバーツーリズムの解消 (B)スマート防災
- フィールドワーク Ideathonテーマに関連する学外活動
- 学生主体活動 運営学生主導による交流活動
- 国際棟での共同生活 生活を通じた文化理解と交流活動



## ■ Ideathon課題 (A)オーバーツーリズムの解消 (B)スマート防災を通じた学び



JTB熊本様:鍋ヶ滝事例紹介  
有識者による導入講演



合志市社会福祉協議会様



議論の様子



解決案プレゼン

## ■ 学外活動を通じた体験的学び



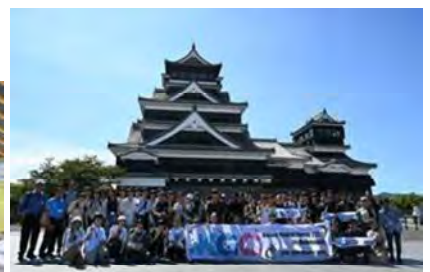
金剛株式会社様の取り組み見学



阿蘇山見学



震災ミュージアムKIOKU



熊本城防災セミナーと観光地見学

## ■ 学生主体活動/国際棟での共同生活を通じた相互コミュニケーション力の向上



チームビルディング



夏祭りイベント



誕生日会



花火



フェアウェルパーティー

# 国際化活動の状況と今後の予定（2025年度）



## 留学生在籍状況

出身国	3年	4年	5年	計
ブラジル	1			1
マレーシア	1	2	2	5
タイ	1	1	2	4
ラオス			1	1
インドネシア	1	1		2
計	4	4	5	13

## 短期留学生受入

期間	受け入れ先	人数	派遣元国
4/14-8/8	King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	2	タイ
5/14-8/8	Temasek Polytechnic(Engineering)	1	シンガポール
9/29-12/19	Temasek Polytechnic(IIT)	2	シンガポール
9/29-12/26	Temasek Polytechnic(Engineering)	4	シンガポール
10/2-12/23	Nanyang Polytechnic	2	シンガポール
計		11	

## 交流活動による海外学生受入

期間	実施内容	留学生	本校想定人数	派遣元国
8/24-30	高専Global Camp in 熊本	15	一般参加：19名 (第5ブロック高専生会) 運営参加：27名	シンガポール タイ
3/16,17	Temasek Polytechnic(IIT) 交流会(2日間)	30	40	シンガポール
3月上旬 (調整中)	香港IVE, Shatin校 技術交流会(1週間)	30	30	香港
計		75	106	

## 学生派遣

期間	渡航・活動内容	人数	渡航先
9/7-10	海外研修旅行(2年生希望学生)	37	台湾
9/18-24	海外研修旅行(情報通信エレクトロニクス工学科4年)	40	ベトナム
9/14-21	海外研修旅行(制御情報システム工学科4年)	40	シンガポール
9/22-27	海外研修旅行(人間情報システム工学科4年)	38	シンガポール
8/31-9-4	海外研修旅行(機械知能システム工学科3年)	41	タイ
9/24-9/29	海外研修旅行(建築社会デザイン工学科3年)	16	台湾
9/7-9/13	海外研修旅行(生物化学システム工学科3年)	17	タイ
12/16-20	日タイ高校生ICTフェア	4	タイ
3月中旬	英語研修	15	シンガポール
個別渡航			
7-8月	トビタテ！留学JAPAN	3	ベトナム・スウェーデン アメリカ合衆国 オーストラリア
8-9月 2-3月			
8/11-10/10	協定校交換留学(研究プロジェクト)	1	シンガポール
8/22-8/3	サマースクール(半導体関連)	1	フィリピン
個別	個別留学(語学留学)	8	フィリピン ドイツ、マレーシア・ス ロバキア等
計		251	

## 学内国際活動

実施時期	実施内容	想定人数	対象
7/1	グローバルエンジニア講演会	120	2年生
9/3-9/5	英語集中講座-学内	191	3年生希望者+留学生TA
9月	技術英語I(4年生対象)-研修旅行渡航先実施または学内教員による授業実施	100	4年生履修者
9月	技術英語II(5年生対象)-学内	15	5年生希望者
12月頃	キャンパス合同国際交流会-フィールドワーク	50	留学生+本校希望学生
12月頃	専攻科技術英語集中講義-学内	25	専攻科2年生
3月頃	LEGO シリアスプレイEnglish	20	1-3年生希望者
計		349	

# これまでの国際化活動



タイPCSHSとの交流



IDEATHON2023(熊本), IDEATHON2024(香港)



シンガポール研修旅行



Temasek Poly.との技術交流会



ADTEC教職員研修



短期留学生との交流



ハノイ大学表敬訪問



Temasek Poly.表敬訪問

## ●熊本キャンパスの留学生が「ホテル祭り」に参加しました。(2025/5/17)

- ✓ 熊本キャンパスの留学生が合志国際交流会の皆様にご招待いただき、合志市の上庄地区(竹迫城跡公園一帯)で開催された「ホテル祭り」に参加しました。
- ✓ 留学生からは、「ホテルを見たのは初めてで感動した」「いつも心温まるおもてなしが嬉しかった」といった声が寄せられました。



## ●八代キャンパス留学生が、異文化交流事業に講師として参加しました。(2024/10/19、12/21)

- ✓ 「異文化カフェ」に、八代キャンパス留学生が講師として参加しました。「異文化カフェ」は「やつしろ国際協会」の主催事業で、やつしろ国際協会会員および地域住民の異文化理解を深める目的で開催されているものです。



21

## ④ 財政面の活動



- **熊本高専八代キャンパスにて「株式会社三井三池製作所とのネーミングライツ施設開設記念式典」を挙行了しました。(9/26)**

✓ 株式会社三井三池製作所を本校第1号のネーミングライツ・パートナーとして決定し、「ネーミングライツに関する契約書」を締結しました。これにより令和7年9月1日から**3年間**、八代キャンパス第1体育館(以下、本施設)の愛称が「**さんさく不知火アリーナ**」となります。(※「さんさく」とは(株)三井三池製作所の略称。)

- **ネーミングライツ・広告パートナーの募集について**

✓ ネーミングライツ・広告パートナー様のメリットとして、①本校との連携強化、②学生の企業の知名度UP、③企業の社会的評価の向上などがあげられます。



テープカット



サイン



記念撮影 (本校卒業生)

令和7年度熊本高等専門学校運営諮問会議報告書

令和8年5月発行

熊本高等専門学校 総務課

〒861-1102 熊本県合志市須屋 2659-2

TEL:096-242-6015 FAX:096-242-5503

URL:<http://www.kumamoto-nct.ac.jp/>